

鳥栖市子ども・子育て支援に関する  
ニーズ調査

報 告 書

平成 26 年 3 月

鳥 栖 市



## 目 次

はじめに 調査の概要 .....	1
1. 調査の目的 .....	2
2. 調査対象・方法及び回収率 .....	2
第1章 総括 .....	3
1. アンケートについて .....	4
2. ニーズ調査のまとめ .....	4
第2章 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果 .....	7
就学前児童保護者・小学生児童保護者 .....	8
1. お住まいの地域 .....	8
(1) 住まいの校区について .....	8
2. ご家族の状況 .....	9
(1) 子どもの生年月、年齢（平成25年10月1日現在） .....	9
(2) 子どもの人数 .....	10
(3) 調査票の回答者 .....	11
(4) 調査票の回答者の配偶関係 .....	11
(5) 子どもの子育てを主にしている人 .....	12
3. 子どもの育ちをめぐる環境 .....	13
(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関 .....	13
(2) 子どもの子育てに最も影響すると思われる環境 .....	15
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人 .....	17
(4) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況 .....	18
(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況 .....	19
(6) 子どもの子育てをする上で気軽に相談できる人や場所 .....	20
(7) 子どもの子育てに関して気軽に相談できる人・機関等 .....	21
4. 子どもの保護者の就労状況 .....	23
(1) 保護者の就労状況（母親） .....	23
(2) 就労している保護者の週当たりの「就労日数」、 1日当たりの「就労時間」（母親） .....	24
(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間（母親） .....	26
(4) 保護者の就労状況（父親） .....	28
(5) 就労している保護者の週当たりの「就労日数」、 1日当たりの「就労時間」（父親） .....	29

(6)	就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間（父親）	31
(7)	就労している保護者のフルタイムへの転換希望 （パートタイム、アルバイト等）（母親）	33
(8)	就労している保護者のフルタイムへの転換希望 （パートタイム、アルバイト等）（父親）	34
(9)	就労していない、またはこれまで就労したことがない 保護者の就労希望（母親）	35
(10)	就労を希望する保護者の就労希望形態（母親）	36
(11)	就労していない、またはこれまで就労したことがない 保護者の就労希望（父親）	39
(12)	就労を希望する保護者の就労希望形態（父親）	40
5.	平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	42
(1)	子どもの定期的な教育・保育の事業の利用	42
(2)	子どもが平日に利用している教育・保育の事業	42
(3)	子どもが平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用状況	43
(4)	子どもが平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用状況の意向	46
(5)	現在、利用している教育・保育事業の場所	48
(6)	平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由	49
(7)	子どもが定期的な教育・保育の事業を利用していない理由	50
(8)	子どもの平日の教育・保育の事業として定期的に利用したい事業	51
(9)	教育・保育事業を利用したい場所	52
6.	子どもの地域の子育て支援事業の利用状況	52
(1)	子どもの現在の「地域子育て支援センター」の利用状況	52
(2)	子どもの現在の「その他鳥栖市内で実施している類似事業」の利用状況	54
(3)	「地域子育て支援センター」（地域子育て支援拠点事業）の利用意向	56
(4)	地域の子育て支援事業	59
7.	子どもの土日・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望	60
(1)	子どもの土曜日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向	60
(2)	子どもの日曜日・祝日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向	62
(3)	土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由	63
(4)	幼稚園を利用している子どもの、長期の休暇期間中の教育・保育の事業の 利用意向	64
(5)	幼稚園を利用する子どもの、教育・保育事業をたまに利用したい理由	66

8. 子どもの病気の際の対応（平日の教育・保育の利用者のみ）	67
(1) 子どもの病気やケガの時の、平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況	67
(2) 子どもの病気やケガの時の、通常の事業が利用できない場合の対処方法	68
(3) 通常の事業が利用できない場合の対処方法の年間日数	70
(4) 病児・病後児保育事業の利用意向	71
(5) 病児・病後児保育事業の望ましい事業形態	72
(6) 病児・病後児保育事業を利用したいと思わない理由	73
(7) 子どもの病気やケガの時に、父母が仕事を休んで看ることへの意向	74
(8) 子どもの病気やケガの時に、仕事を休んで看することは非常に難しい理由	75
9. 子どもの不規則の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用状況	76
(1) 私用、親の通院、不規則の就労等の目的で不規則に利用している事業	76
(2) 不規則に利用している事業の年間利用日数	78
(3) 私用、親の通院、不規則の就労等の目的で、不規則の事業を利用 していない理由	79
(4) 私用、親の通院、不規則の就労等の目的で、利用の必要がある事業	80
(5) 利用の必要がある事業の年間利用日数の意向	81
(6) 利用したい事業の望ましい事業形態	82
(7) 保護者の用事により、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験	83
(8) 子どもを泊まりがけで家族以外の誰かに預けた年間泊数	84
(9) 子どもを親族・知人に預けた場合の困難度	85
10. 子どもの放課後等の過ごし方	86
(1) 子どもが現在、放課後に過ごしている場所	86
(2) 現在、放課後に過ごしている場所の週当たり利用日数	87
(3) 現在の、放課後に過ごしている放課後児童クラブの利用時間帯	87
(4) 子どもが小学校低学年の時に、放課後に過ごす場所の意向	88
(5) 小学校低学年の時に、放課後に過ごす場所の週当たり利用日数の意向	89
(6) 小学校低学年の時の、放課後児童クラブの利用時間帯の意向	90
(7) 子どもが小学校高学年の時に、放課後に過ごす場所の意向	91
(8) 小学校高学年の時に、放課後に過ごす場所の週当たり利用日数の意向	92
(9) 小学校高学年の時の、放課後児童クラブの利用時間帯の意向	93
(10) 放課後児童クラブの土曜日の利用と利用時間帯の意向	94
(11) 放課後児童クラブの日曜・祝日の利用と利用時間帯の意向	97
(12) 放課後児童クラブの長期の休暇中の利用と利用時間帯の意向	100
11. 育児休業制度や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	103
(1) 育児休業制度の取得経験	103
(2) 育児休業制度を取得していない理由（母親）	104
(3) 育児休業制度の取得経験（父親）	105
(4) 育児休業制度を取得していない理由（父親）	106

(5) 子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組みと、 子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及 び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みに関する認知度.....	107
(6) 育児休業取得後の職場復帰（母親）.....	108
(7) 育児休業取得後の職場復帰（父親）.....	108
(8) 育児休業から職場に復帰したタイミング（母親）.....	109
(9) 育児休業から職場に復帰したタイミング（父親）.....	109
(10) 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢（母親）.....	110
(11) 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢の意向（母親）.....	111
(12) 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢（父親）.....	112
(13) 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢の意向（父親）.....	112
(14) 勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の、 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢の意向（母親）.....	113
(15) 勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の、 育児休業制度からの職場復帰時の、子どもの月齢の意向（父親）.....	113
(16) 育児休業制度から希望の時期に職場復帰しなかった理由（母親早く復帰）	114
(17) 育児休業制度から希望の時期に職場復帰しなかった理由（父親早く復帰）	115
(18) 育児休業制度から希望の時期に職場復帰しなかった理由（遅く復帰）....	116
(19) 育児休業からの職場復帰時の、短時間勤務制度の利用状況（母親）.....	117
(20) 育児休業からの職場復帰時の、短時間勤務制度の利用状況（父親）.....	117
(21) 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由（母親）.....	118
(22) 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由（父親）.....	119
(23) 子どもが1歳になった時に利用可能な事業がある場合の、1歳まで 育児休業取得の意向（母親）.....	120
12. 鳥栖市における子育ての環境や支援について.....	121
(1) 鳥栖市における子育ての環境や支援の満足度.....	121

## アンケートについて

本アンケートは統計上、次の点において数値に違いがありますが、統計結果の間違いではありません。

### ① 回答数の合計について

設問中「複数回答」と記述のある箇所は1人あたり複数回答された設問です。よって、回答数計が回答数（人）を上回ります。

### ② 割合の合計について

統計結果中、割合の合計値が100%にならない箇所がありますが、割合を小数点第2位を四捨五入していることによるものです。

### ③ アンケート回収数と回答数が一致しない部分について

アンケート回収数と回答数（人）が一致しない部分は、アンケートの設問に対して回答されていない箇所があることによります。





## はじめに 調査の概要

## 1. 調査の目的

本市では、「鳥栖市次世代育成支援行動計画【後期計画】」を平成22年3月に策定し、「子育てによるこびを感じるまち！楽しく働くことのできるまち！地域で子どもを育むまち！」を基本理念に施策を推進してきました。

子育て支援サービスの利用状況をはじめ、保護者の子ども・子育てに関する意向等を把握し、子ども・子育て支援事業計画の策定に資することを目的として、「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。

## 2. 調査対象・方法及び回収率

### (1) 調査対象について

- ① 就学前児童保護者・・・1,200人
- ② 小学生児童保護者・・・300人

### (2) 調査方法について

- ① 対象者の無作為抽出にて調査を行いました。  
(兄弟姉妹がいる場合は、末子を対象としています。)
- ② 郵送により、調査票の配布・回収を行いました。

### (3) 回収率について

アンケート調査における回収率は以下のとおりです。

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童保護者	1,200件	555件	46.25%
小学生児童保護者	300件	154件	51.33%
計	1,500件	709件	47.27%

## 第 1 章 総括

## 1. アンケートについて

---

今回実施した子ども・子育て支援に関するニーズ調査は、本市における子育てや育児の状況、保護者の子育て支援に対するニーズなどについて把握し、今後策定する子ども・子育て支援事業計画の基礎資料とすることを目的としています。

アンケートでは子育てに関する以下に示す項目について調査を行っています。

- ① お住まいの地域とご家族の状況
- ② 子どもの育ちをめぐる環境
- ③ 保護者の就労状況
- ④ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況
- ⑤ 地域の子育て支援事業の利用状況
- ⑥ 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望
- ⑦ 病気の際の対応
- ⑧ 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用状況
- ⑨ 放課後等の過ごし方
- ⑩ 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度
- ⑪ 鳥栖市における子育ての環境や支援

## 2. ニーズ調査のまとめ

---

### (1) 子どもの育ちをめぐる環境

「子育ては、父母や祖父母等の家族で行っている環境にありますが、行政や子育て関連機関への相談は低い傾向にあります。」

- ・日常的な子育ては、父母ともに行っているとの回答が多く、緊急時や用事の時には祖父母にみてもらえる環境（就学前児童では 55.3%、小学生児童では 47.4%）があることがうかがえます。また、小学生児童になると、日常的に関わっている人・機関として小学校が 68.8%と高い結果となっています。
- ・相談できる人は、祖父母等の親族や友人、近所の人、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭が多く、鳥栖市の子育て関連担当窓口や子育て支援機関への相談は低い傾向にあります。

### (2) 保護者の就労状況

「子育てをしながら、仕事をしやすい環境づくりが必要です。」

- ・就労している母親について、フルタイムで就労している母親が、就学前では 22.3%、小学生では 33.1%みられ、現在、就労していない母親については、子どもが3～4歳になったらパートタイムやアルバイト（全体で 48.5%）、フルタイム（全体で 5.5%）での就労を希望しています。

### (3) 教育・保育事業の利用状況

「現状では、保育所（園）や幼稚園の利用が多く、今後の希望として認定こども園やファミリー・サポート・センターのニーズもみられます。」

- 平日に利用している教育・保育の事業は、認可保育所が 48.2%、幼稚園が 42.7%、幼稚園の預かり保育が 8.2%となっていますが、今後の利用希望については認可保育所が 50.6%、幼稚園が 54.4%、幼稚園の預かり保育が 25.0%、認定こども園が 13.0%、ファミリー・サポート・センターが 9.5%あげられています。
- 日曜日・祝日の教育・保育の利用意向として、月に 1～2回は利用したいという人が 16.2%、ほぼ毎週利用したいという人が 1.4%みられます。

### (4) 放課後児童クラブの利用意向

「放課後児童クラブ（なかよし会）の利用意向が高くみられます。日曜日・祝日や長期休暇中の利用のニーズの把握も必要です。」

- 小学校低学年（1～3年生）時の利用意向として、就学前児童では 44.7%、小学生児童では 18.2%の利用意向があり、高学年（5～6年生）時では、就学前児童 30.9%、小学生児童 13.6%の利用意向がみられます。
- 日曜日・祝日の利用は、就学前児童で 13.0%、小学生児童で 7.7%が低学年の間は利用したいと回答しており、長期の休暇中の利用についても、小学生児童の 32.5%の人が低学年の間は利用したいと回答しています。保護者の就労も影響していると思われるが、高学年になってからの希望等も含め、放課後児童クラブ利用についてニーズの把握が必要です。

### (5) 育児休業制度の取得について

「育児休業制度の取得が少ない状況の中で、育児休業制度の周知や働く場所（企業等）のサポートなどの取り組みが求められています。」

- 母親の育児休業制度の取得経験について、「取得した」が全体の 31.7%、「取得していない」が 19.6%となっています。取得していない理由として、就学前児童では「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 21.6%、「仕事に戻るのが難しそうだった」が 17.1%みられ、小学生児童では、「職場に育児休業の制度がなかった」が 25.0%、「仕事が忙しかった」が 17.9%となっています。中には、育児休業を取得できることを知らなかったという回答が 0.9%みられることから、制度についての周知や子育てをする人への職場の理解、そして周りのサポートが必要です。



## 第2章 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果

# 就学前児童保護者・小学生児童保護者

## 1. お住まいの地域

### (1) 住まいの地区について

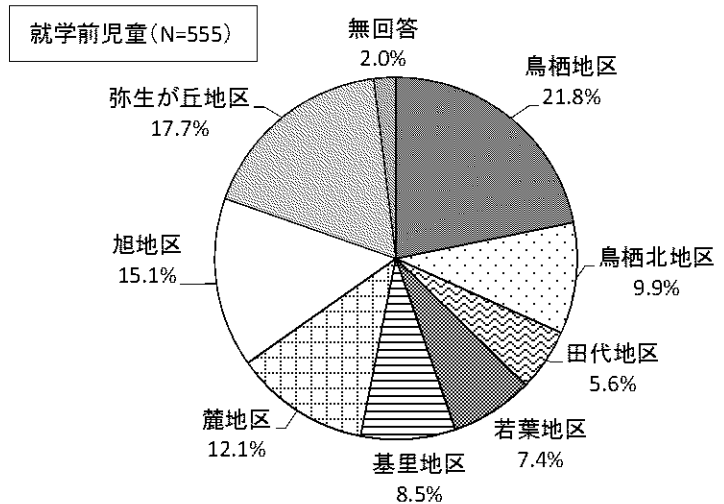
就学前児童・小学生児童：問1

アンケート調査の対象となった保護者の住まいの地区（小学校区）について、就学前児童では、「鳥栖地区」（21.8%）が最も多く、次いで「弥生が丘地区」（17.7%）、「旭地区」（15.1%）となります。

#### ■ 住まいの地区

就学前児童(N=555)

	(人)	(%)
鳥栖地区	121	21.8
鳥栖北地区	55	9.9
田代地区	31	5.6
若葉地区	41	7.4
基里地区	47	8.5
麓地区	67	12.1
旭地区	84	15.1
弥生が丘地区	98	17.7
無回答	11	2.0
合計	555	100.0

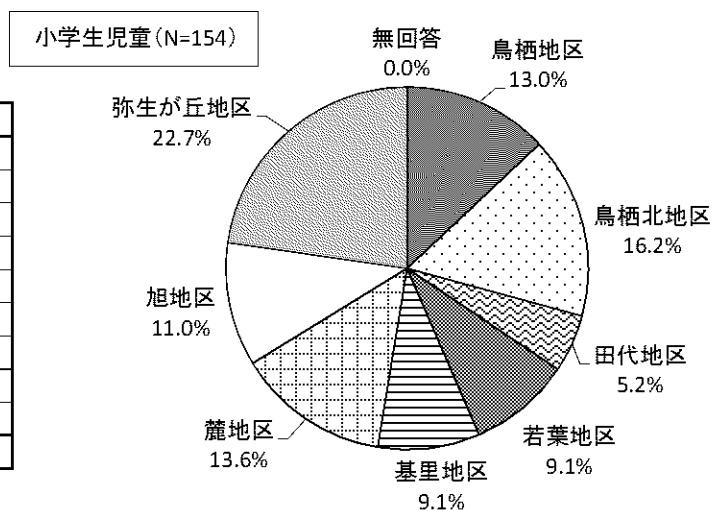


小学生児童では、「弥生が丘地区」（22.7%）が最も多く、次いで「鳥栖北地区」（16.2%）、「麓地区」（13.6%）と続きます。

#### ■ 住まいの地区

小学生児童(N=154)

	(人)	(%)
鳥栖地区	20	13.0
鳥栖北地区	25	16.2
田代地区	8	5.2
若葉地区	14	9.1
基里地区	14	9.1
麓地区	21	13.6
旭地区	17	11.0
弥生が丘地区	35	22.7
無回答	0	0.0
合計	154	100.0





## 2. ご家族の状況

### (1) 子どもの生年月、年齢（平成25年10月1日現在）

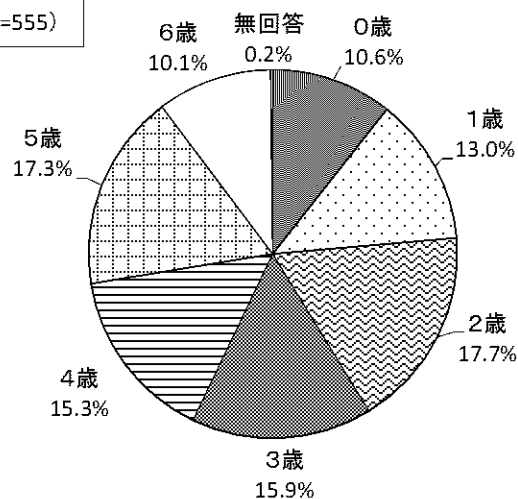
#### 就学前児童・小学生児童：問2

就学前児童では、「2歳」が98人、17.7%と最も多く、次いで「5歳」（96人、17.3%）、3歳（88人、15.9%）と続きます。0～2歳は229人（41.3%）で、3～5歳（269人、48.5%）の人数が高くなっています。

#### ■ 年齢

就学前児童（N=555）

	(人)	(%)
0歳	59	10.6
1歳	72	13.0
2歳	98	17.7
3歳	88	15.9
4歳	85	15.3
5歳	96	17.3
6歳	56	10.1
無回答	1	0.2
合計	555	100.0



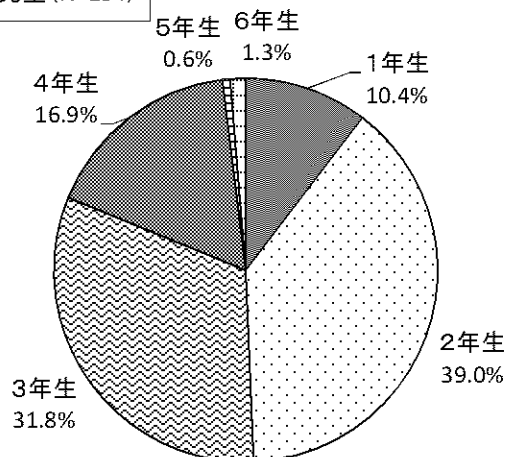
小学生児童では、「2年生」が60人、39.0%と最も多く、次いで「3年生」が49人（31.8%）、「4年生」が26人（16.9%）と続きます。低学年は125人（81.2%）で、高学年（29人、18.8%）より多くなっています。

#### ■ 年齢

小学生児童（N=154）

	(人)	(%)
1年生	16	10.4
2年生	60	39.0
3年生	49	31.8
4年生	26	16.9
5年生	1	0.6
6年生	2	1.3
無回答	0	0.0
合計	154	100.0

小学生児童（N=154）



## (2) 子どもの人数

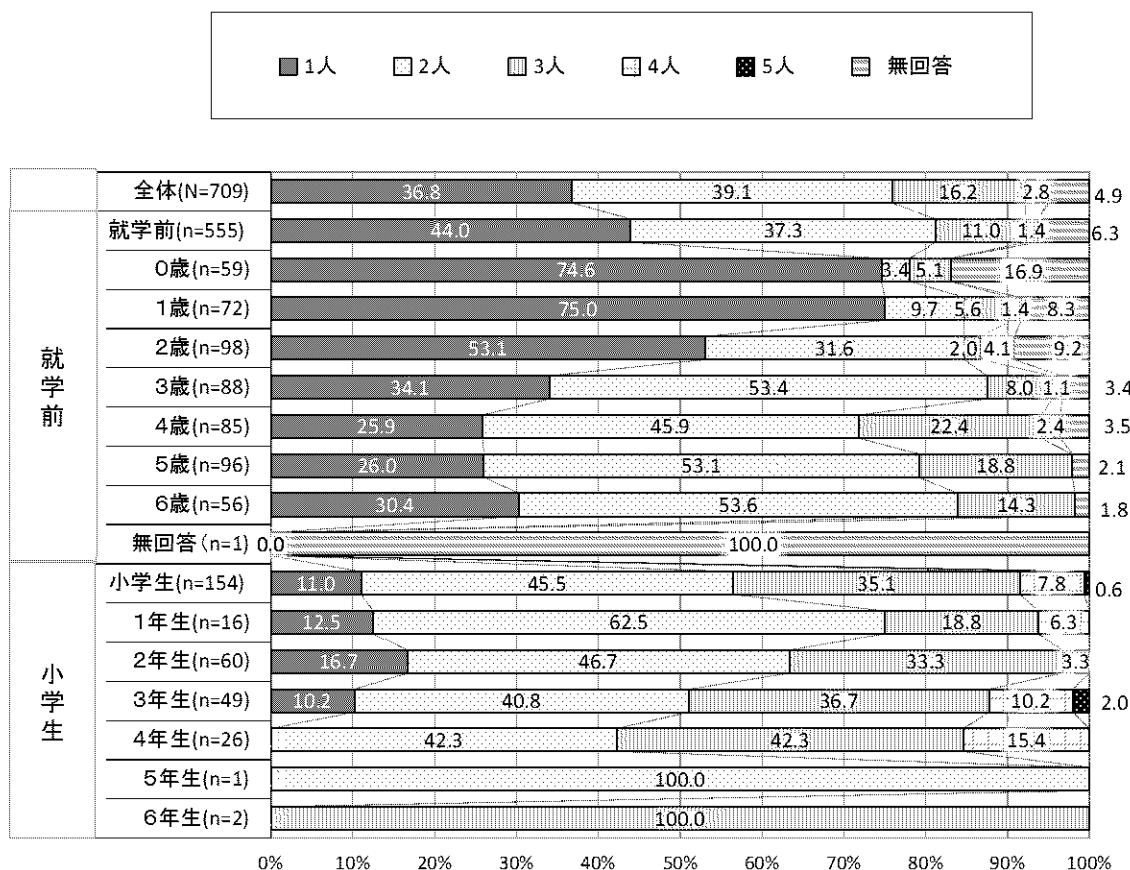
### 就学前児童・小学生児童：問3

子どもの人数は「2人」と答えた人が最も多く、39.1%を占めています。次いで「1人」(36.8%)も多くみられ、1～2人で75.9%となっています。また、「2人」は就学前児童で37.3%、小学生児童では45.5%を占めます。年齢が高くなるにつれ、きょうだい数が増えていきます。

また、末子の生年月日において、就学前児童では「平成22年(3歳)」と「平成23年(2歳)」でそれぞれ98人、17.7%と最も高く、小学生児童では「平成18年(7歳)」(14.3%)が高い結果になっています。

#### ■ 子どもの人数

N=709



#### ■ 末子の生年月

就学前(n=555)

生年月	(人)	(%)
19年(6歳)	72	13.0
20年(5歳)	88	15.9
21年(4歳)	87	15.7
22年(3歳)	98	17.7
23年(2歳)	98	17.7
24年(1歳)	62	11.2
25年(0歳)	49	8.8
無回答	1	0.2
合計	555	100.0

小学生(n=154)

生年月	(人)	(%)
16年(9歳)	11	7.1
17年(8歳)	19	12.3
18年(7歳)	22	14.3
19年(6歳)	21	13.6
20年(5歳)	13	8.4
21年(4歳)	14	9.1
22年(3歳)	10	6.5
23年(2歳)	9	5.8
24年(1歳)	7	4.5
25年(0歳)	8	5.2
無回答	20	13.0
合計	154	100.0

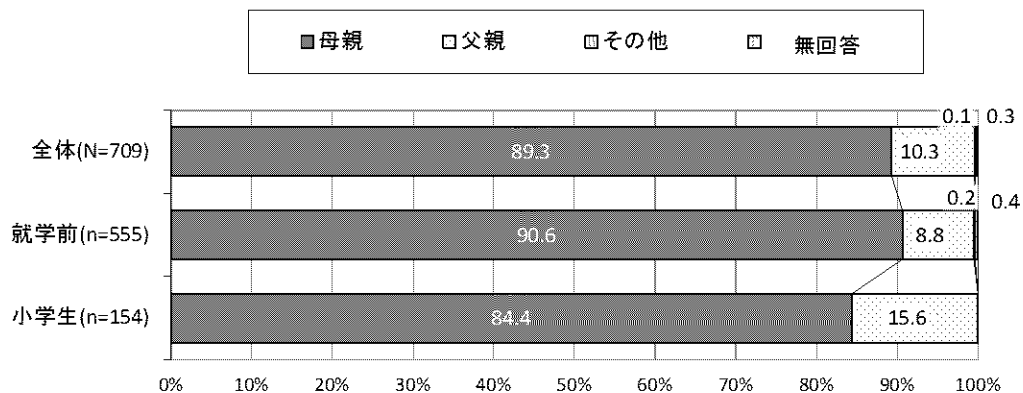
### (3) 調査票の回答者

就学前児童・小学生児童：問4

調査票の回答者は、「母親」が 89.3%と大多数を占め、次いで「父親」(10.3%)となり、就学前児童、小学生児童ともに回答者は大多数が母親ということが分かります。

#### ■ 調査票の回答者

N = 709



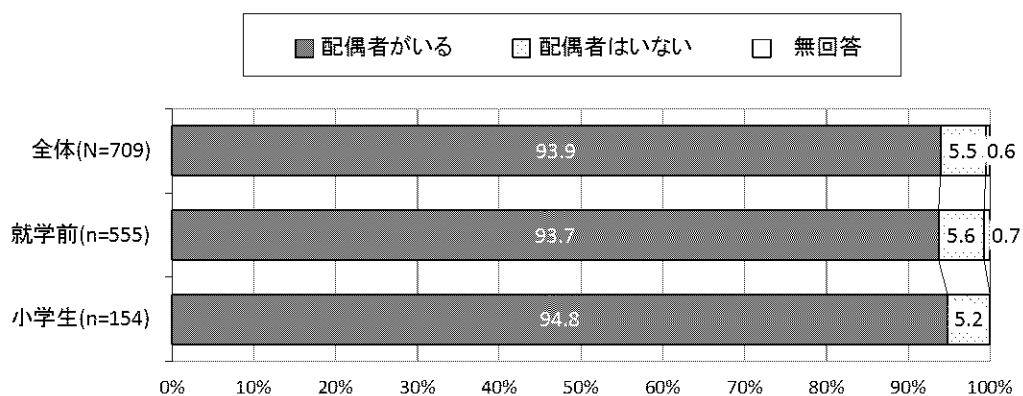
### (4) 調査票の回答者の配偶関係

就学前児童・小学生児童：問5

配偶者がいると回答した人は 93.9%と半数以上を占めており、就学前児童では 93.7%、小学生児童になると 94.8%とやや高くなります。

#### ■ 回答者の配偶関係

N = 709



## (5) 子どもの子育てを主にしている人

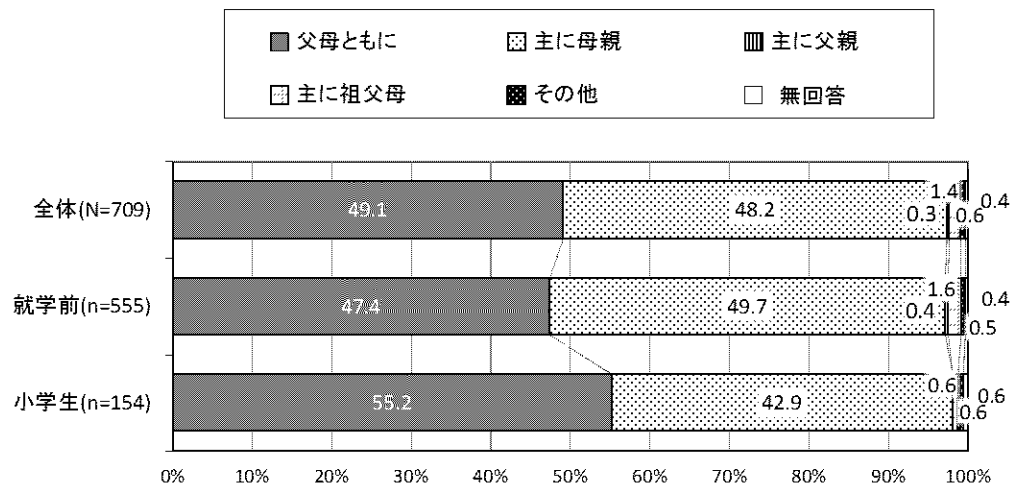
就学前児童・小学生児童：問6

子どもの子育てを主にしている人としては、「父母ともに」が最も多く、49.1%となり、次いで「主に母親」(48.2%)となり、「父母ともに」と「主に母親」で97.3%を占めます。

小学生では、「父母ともに」は55.2%で就学前(47.4%)より、高くなっています。

### ■ 子どもの子育てを主にしている人

N=709



### 3. 子どもの育ちをめぐる環境

#### (1) 子育てに日常的に関わっている人・機関（複数回答）

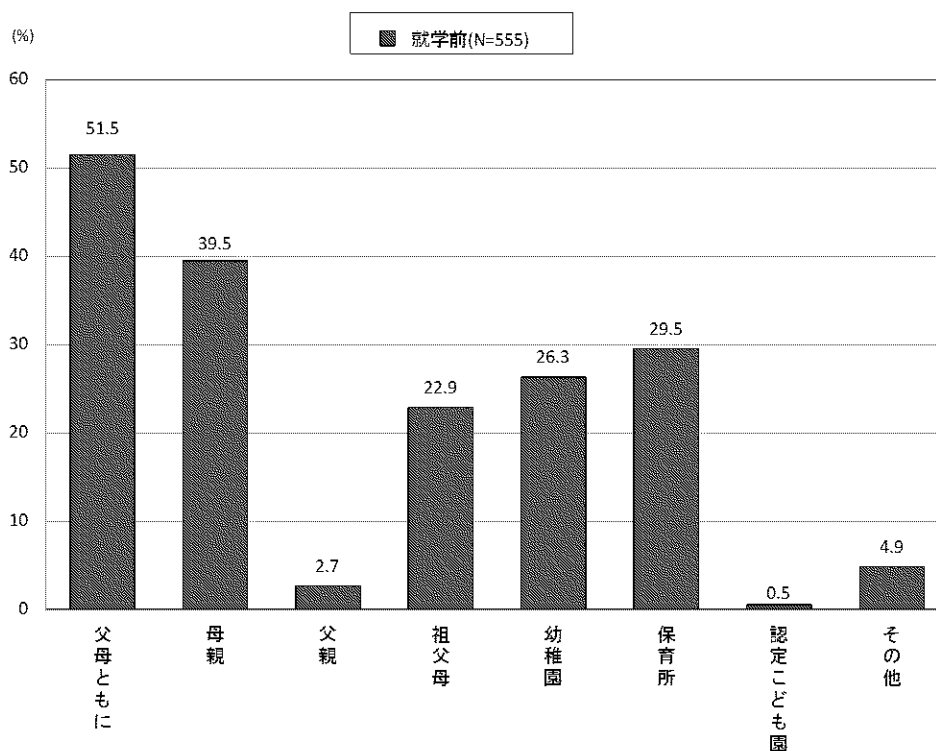
就学前児童・小学生児童：問7

子育てに日常的に関わっている人や機関として、就学前児童では「父母ともに」が最も多く51.5%を占め、次いで「母親」(39.5%)、「保育所」(29.5%)、「幼稚園」(26.3%)と続き、「父親」は2.7%です。教育・保育事業としては、保育所に次いで、「幼稚園」(26.3%)の利用がみられ、「認定こども園」(0.5%)の利用もみられます。

小学生児童では、「小学校」が最も多く68.8%で、次いで「父母ともに」(57.1%)、「母親」(38.3%)、祖父母(24.0%)と続き、「父親」は3.9%となります。

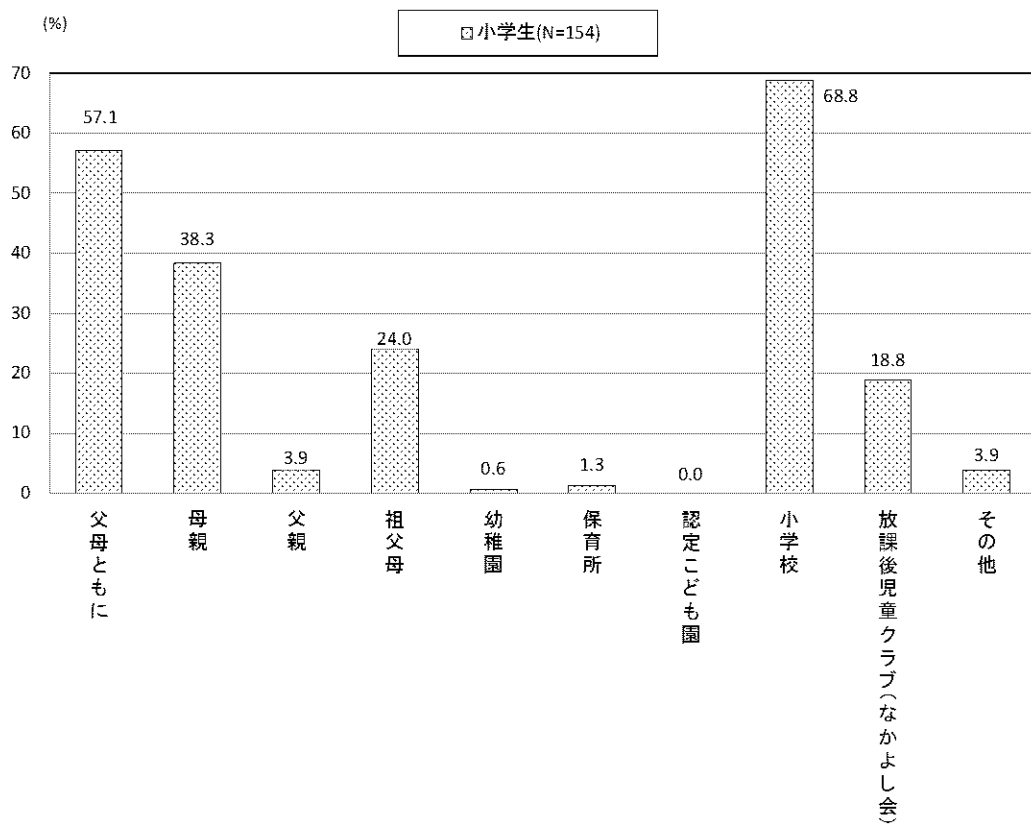
#### ■ 子育てに日常的に関わっている人・機関（就学前児童）

N=555



■ 子育てに日常的に関わっている人・機関（小学生児童）

N = 154



## (2) 子どもの子育てに最も影響すると思われる環境（複数回答）

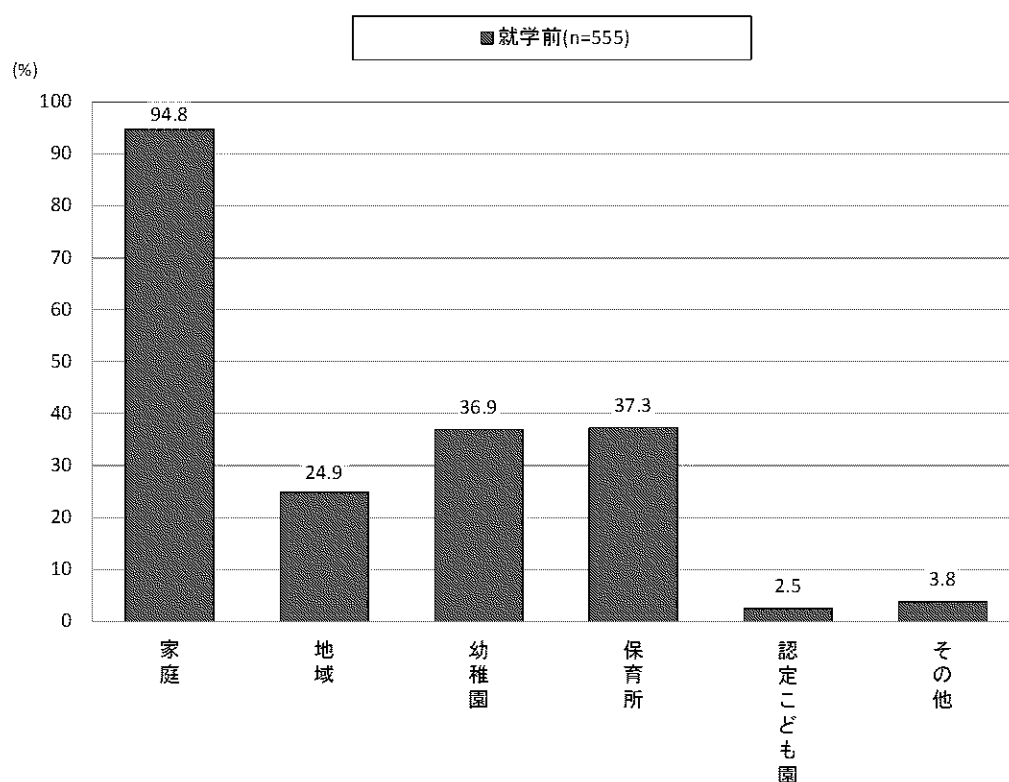
就学前児童・小学生児童：問8

子育てに最も影響すると思われる環境としては、「家庭」が最も多く、就学前児童(94.8%)、小学生児童(95.5%)ともに90.0%を越えています。就学前児童では、次いで「保育所」(37.3%)、「幼稚園」(36.9%)と続きます。

小学生児童では、「家庭」に次いで「小学校」(92.9%)となり、「地域」は、42.9%と就学前児童よりも高くなっています。小学校を通じて、地域とのつながりも深くなるためと推察されます。

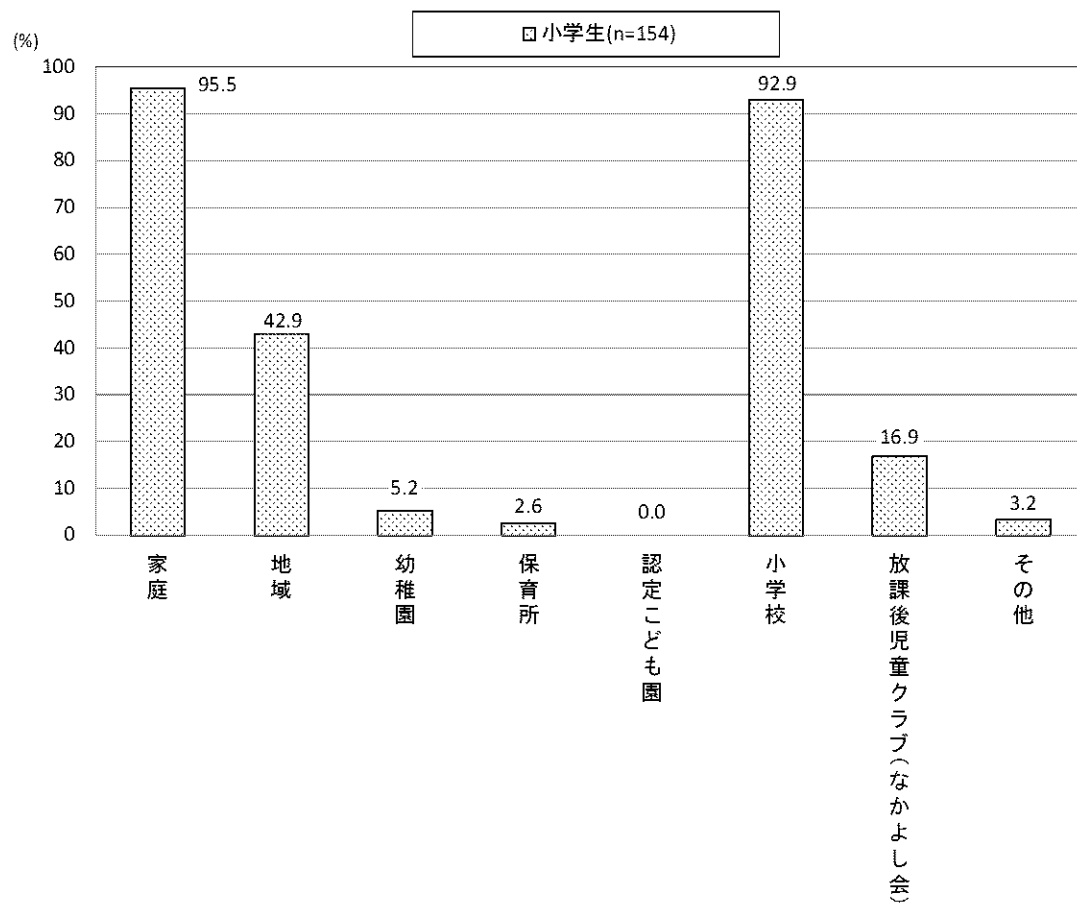
### ■ 子育てに最も影響する環境（就学前児童）

N=555



■ 子育てに最も影響する環境（小学生児童）

N = 154





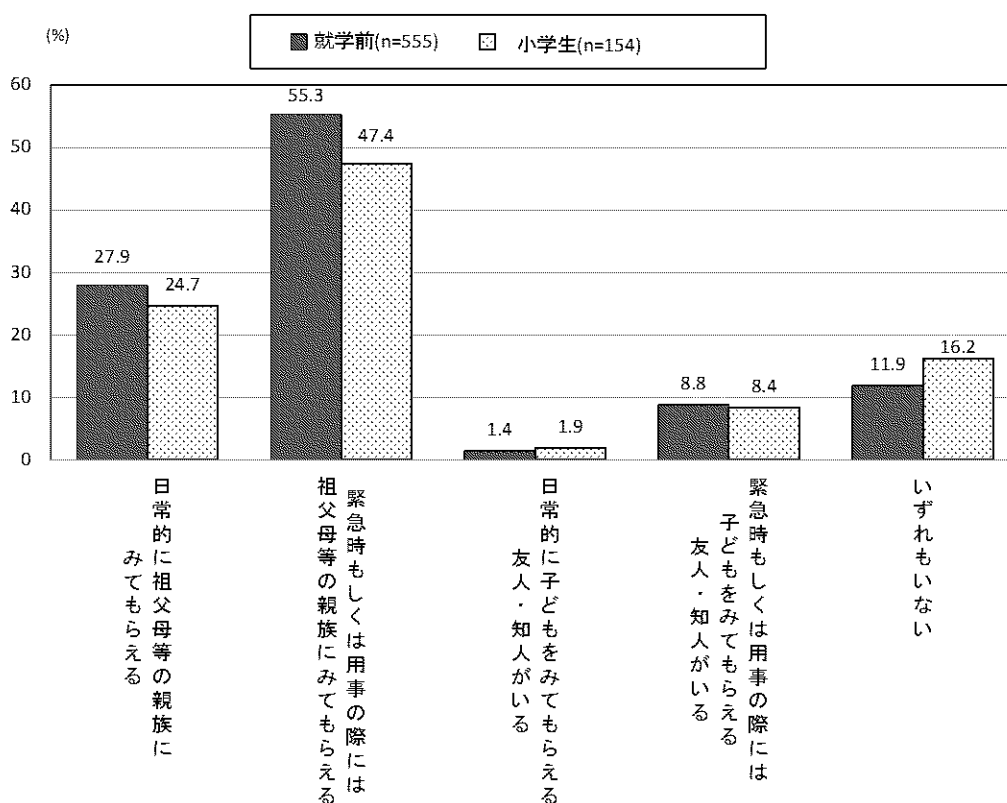
### (3) 子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）

就学前児童・小学生児童：問9

子どもをみてもらえる親族・知人について、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と答えた人が最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」と続きます。

就学前児童と小学生児童を比較すると、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」では就学前児童の割合が高くなっています。子どもをみてもらえる環境がある人が多いことがうかがえますが、「いずれもない」という回答も小学生児童では16.2%みられます。

#### ■ 子どもをみてもらえる親族・知人 N=709

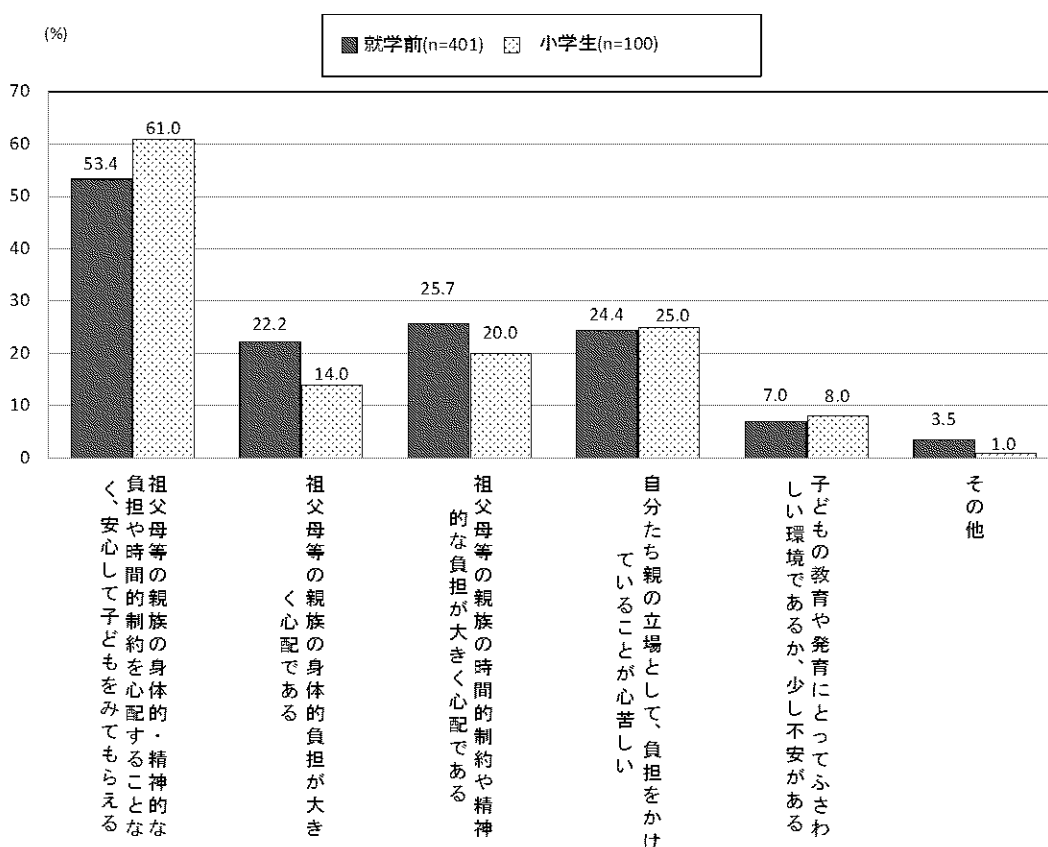


#### (4) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況（複数回答）

就学前児童・小学生児童：問9-1

祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況として、「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と答えている人が最も多く、子育てをする上で祖父母の存在は大きいことがうかがえます。次いで、就学前児童では「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」（25.7%）、小学生児童では、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（25.0%）と続きます。安心して子どもをみてもらえる環境があるが、負担をかけているのではないかと考えている様子がうかがえます。

#### ■ 親戚に子どもをみてもらっている状況 N=501



## (5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況（複数回答）

就学前児童・小学生児童：問9-2

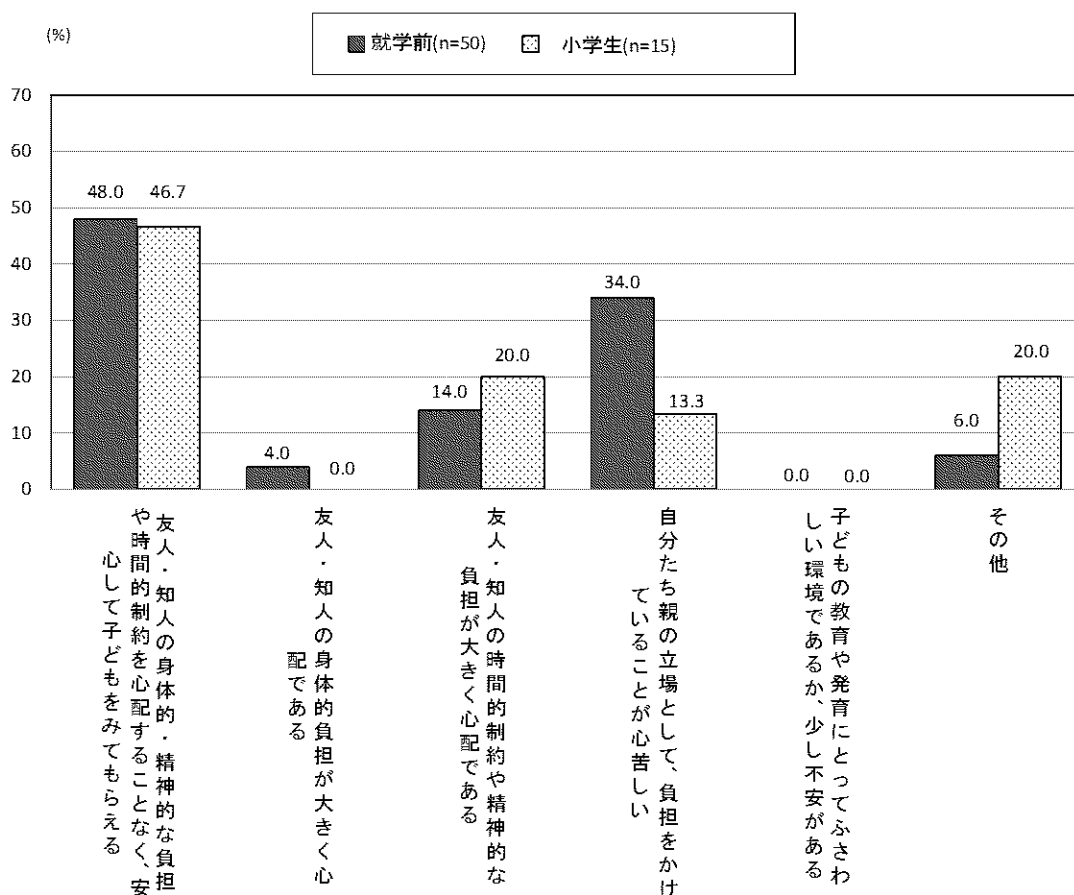
友人・知人に子どもをみてもらっている状況について、祖父母等に預ける場合と同様に「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が最も多くなっています。

就学前児童と小学生児童を比較すると、就学前児童では「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」という回答が小学生児童よりも高く、友人・知人に預けることに対して負担をかけてしまうと考えている人が多いことがうかがえます。

また、小学生児童のその他（20.0%）について「心地よく引き受けてくれるが、出来るだけ短時間で済むよう気をつける必要がある」、「心地よく引き受けてくれるが、申し訳なく思う」という回答もみられます。

### ■ 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

N=65



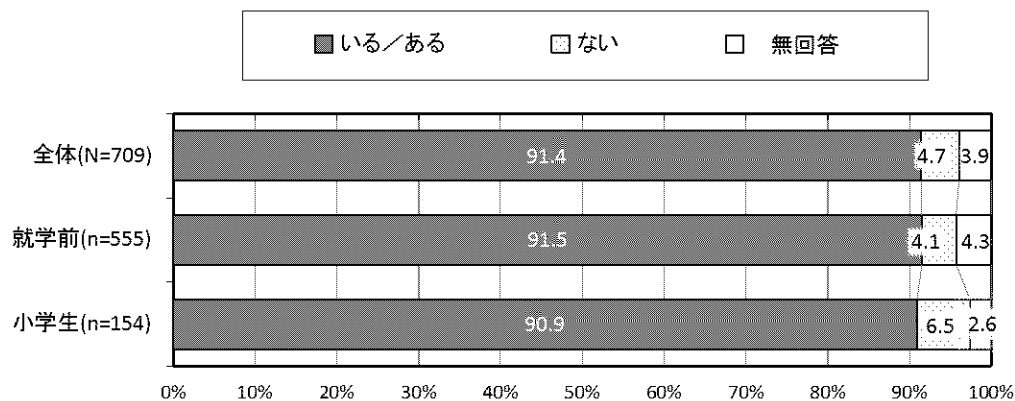
## (6) 子どもの子育てをする上で気軽に相談できる人や場所

就学前児童・小学生児童：問10

子育てをする上で気軽に相談できる人や場所の有無について、あると回答した人は91.4%と大体数を占めています。相談先や場所がないという回答は、4.7%あり、その割合は小学生児童で6.5%と高くなります。

### ■ 子育てをする上で気軽に相談できる人や場所

N=709



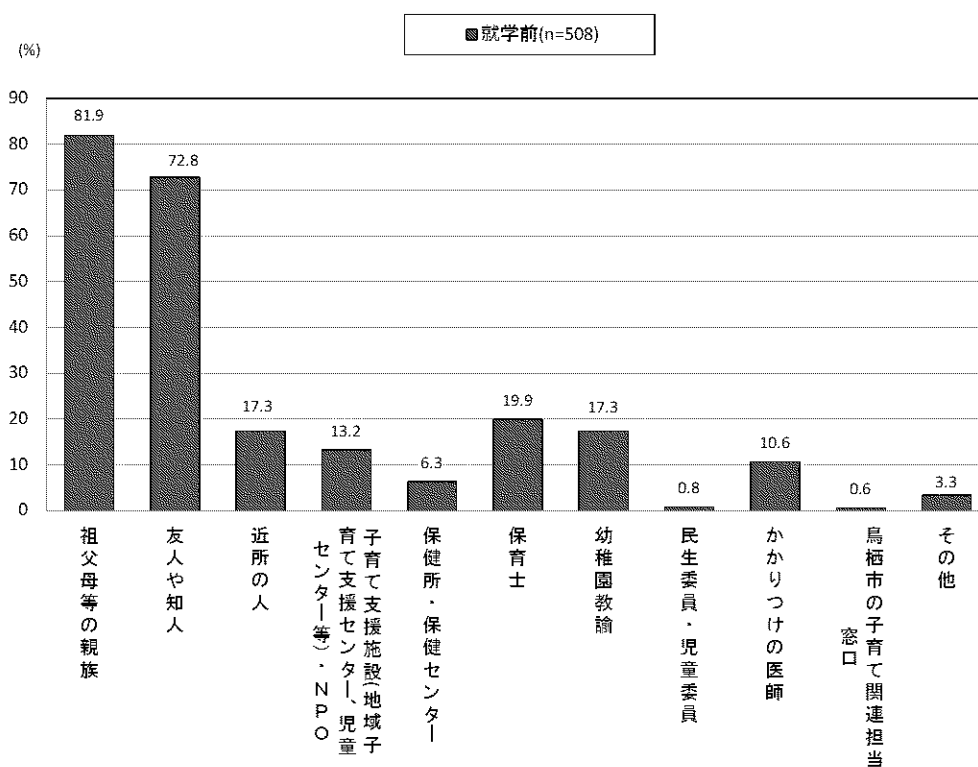
## (7) 子どもの子育てに関して気軽に相談できる人・機関等（複数回答）

就学前児童・小学生児童：問10-1

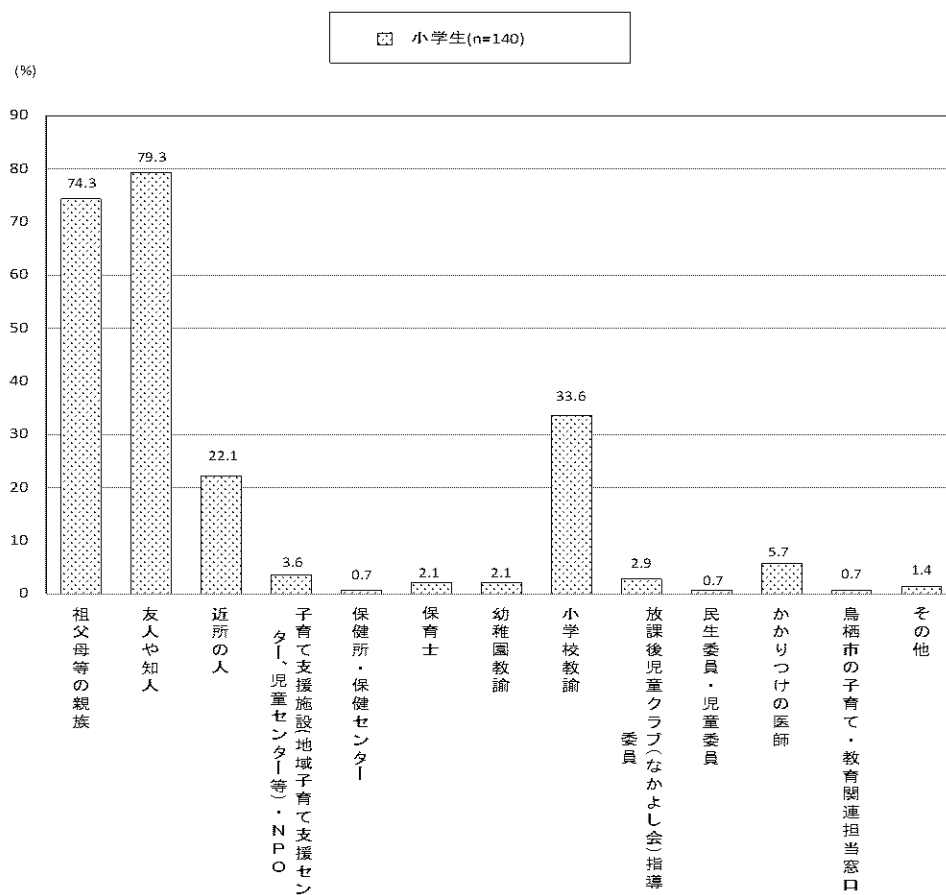
子育てに関して気軽に相談できる人・機関について、就学前児童では「祖父母等の親族」が81.9%と最も高く、次いで「友人や知人」(72.8%)、「保育士」(19.9%)と続きます。また、小学生児童では「友人や知人」が79.3%と最も高く、次いで「祖父母等の親族」(74.3%)、「小学校教諭」(33.6%)と続きます。就学前児童、小学生児童とも身近にいる親族や友人、通っている保育園や幼稚園教諭、小学校教諭等に相談していることがうかがえます。

### ■ 相談できる人・機関等（就学前児童）

N=508



■ 相談できる人・機関等（小学生児童）



## 4. 子どもの保護者の就労状況

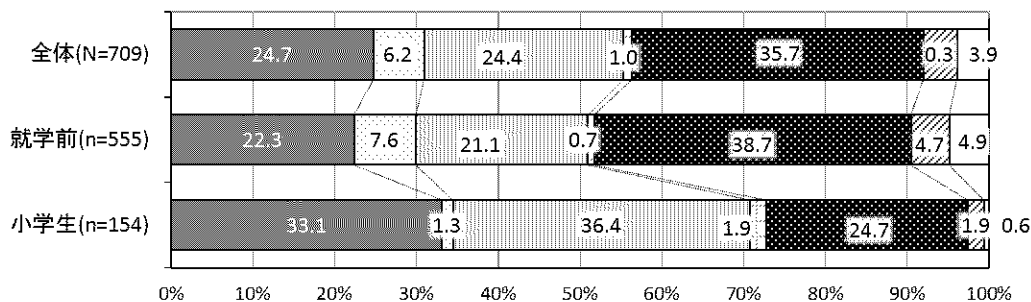
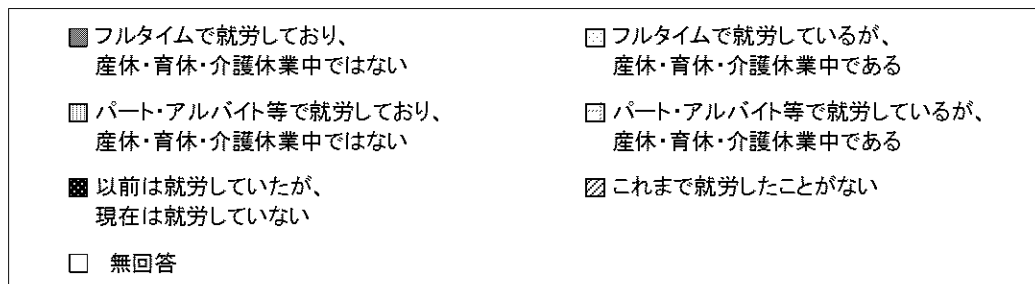
### (1) 保護者の就労状況（母親）

就学前児童・小学生児童：問12（1）

母親の就労状況として、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が35.7%と最も高く、次いで「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(24.7%)、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(24.4%)となっています。

就学前児童と小学生児童を比較すると、「以前は就労していたが、現在は就労していない」という回答は就学前児童の方が高く、現在フルタイムやパート・アルバイト等で就労している人は、小学生児童の母親の方が高くなっており、就学前児童の母親よりも就労している人が多いことがうかがえます。

■ 就労状況（母親） N=709



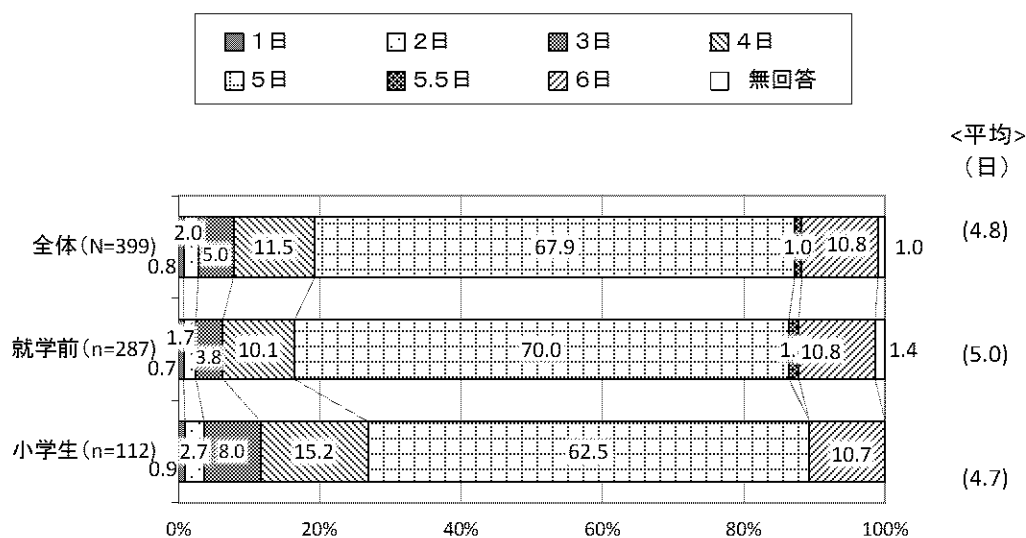
(2) 就労している保護者の週あたりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間」(母親)

就学前児童・小学生児童：問12(1)－1

就労している母親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「5日」(67.9%)、次いで「4日」(11.5%)であり、平均で4.8日となります。また、1日当たりの就労時間として最も多かったのは「8時間以上」(61.2%)であり、平均で約7時間となります。小学生児童の母親では、84.8%の人が8時間以上と回答しています。

■ 1週あたりの「就労日数」(母親)

N=399

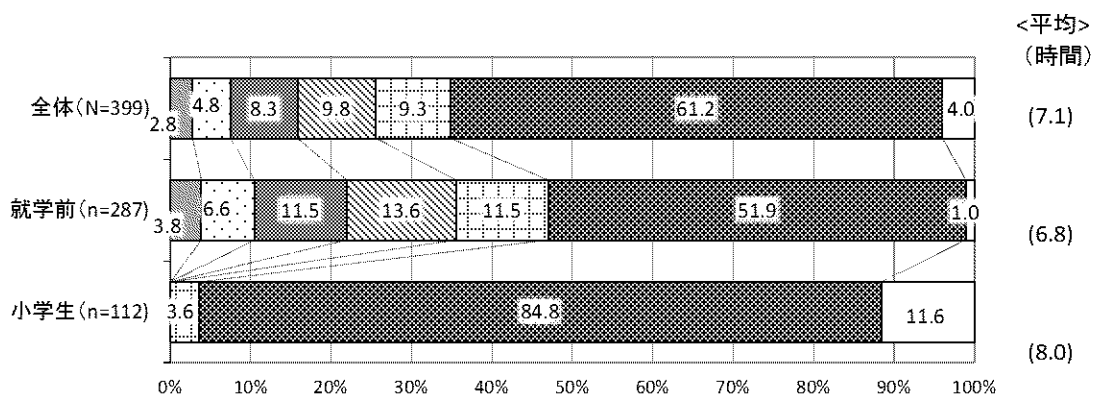
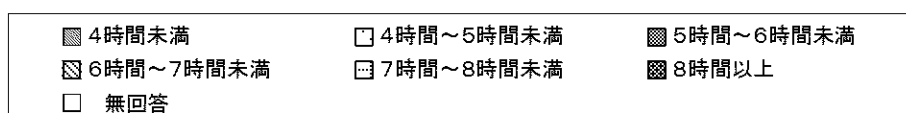


就労日数	全体 (N=399)		就学前 (n=287)		小学生 (n=112)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1日	3	0.8	2	0.7	1	0.9
2日	8	2.0	5	1.7	3	2.7
3日	20	5.0	11	3.8	9	8.0
4日	46	11.5	29	10.1	17	15.2
5日	271	67.9	201	70.0	70	62.5
5.5日	4	1.0	4	1.4	0	0.0
6日	43	10.8	31	10.8	12	10.7
無回答	4	1.0	4	1.4	0	0.0
計	399	100.0	287	100.0	112	100.0



■ 1日当たりの「就労時間」(母親)

N = 399



就労時間	全体 (N=399)		就学前 (n=287)		小学生 (n=112)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
4時間未満	11	2.8	11	3.8	0	0.0
4時間~5時間未満	19	4.8	19	6.6	0	0.0
5時間~6時間未満	33	8.3	33	11.5	0	0.0
6時間~7時間未満	39	9.8	39	13.6	0	0.0
7時間~8時間未満	37	9.3	33	11.5	4	3.6
8時間以上	244	61.2	149	51.9	95	84.8
無回答	16	4.0	3	1.0	13	11.6
計	399	100.0	287	100.0	112	100.0

(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間（母親）

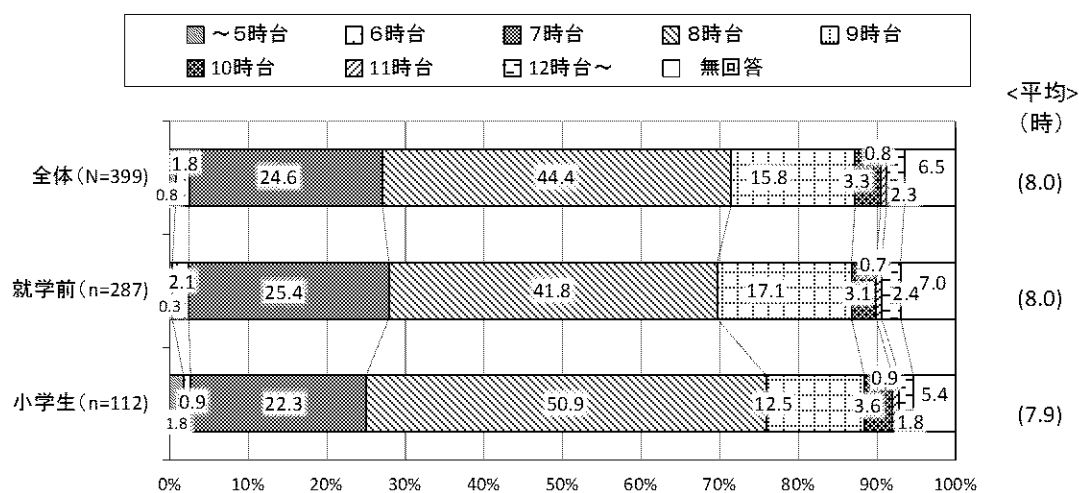
就学前児童・小学生児童：問12（1）－2

母親が家を出る時間は「8時台」が44.4%と最も多く、次いで「7時台」(24.6%)、「9時台」(15.8%)となり、平均で8時となります。

帰宅時間は「18時台」(37.3%)が最も多く、次いで「～16時台」(23.3%)、「17時台」(16.0%)となっています。21時台をあげている人が0.8%みられます。

■ 家を出る時間（母親）

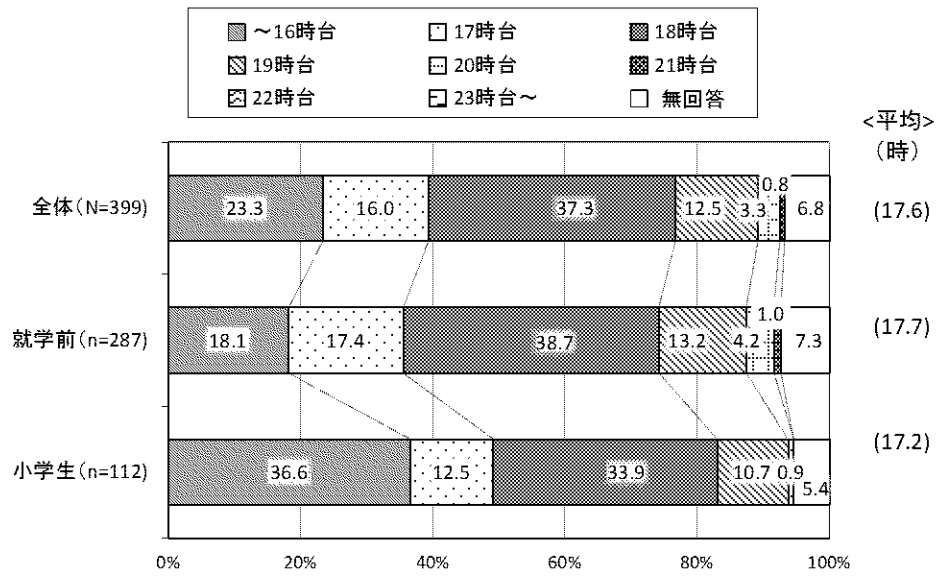
N=399



家を出る時間	全体 (N=399)		就学前 (n=287)		小学生 (n=112)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
～5時台	3	0.8	1	0.3	2	1.8
6時台	7	1.8	6	2.1	1	0.9
7時台	98	24.6	73	25.4	25	22.3
8時台	177	44.4	120	41.8	57	50.9
9時台	63	15.8	49	17.1	14	12.5
10時台	13	3.3	9	3.1	4	3.6
11時台	3	0.8	2	0.7	1	0.9
12時台～	9	2.3	7	2.4	2	1.8
無回答	26	6.5	20	7.0	6	5.4
計	399	100.0	287	100.0	112	100.0

■ 帰宅時間（母親）

N=399



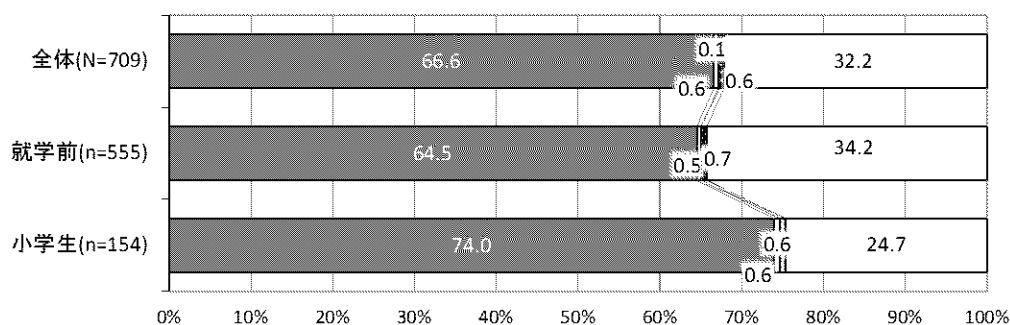
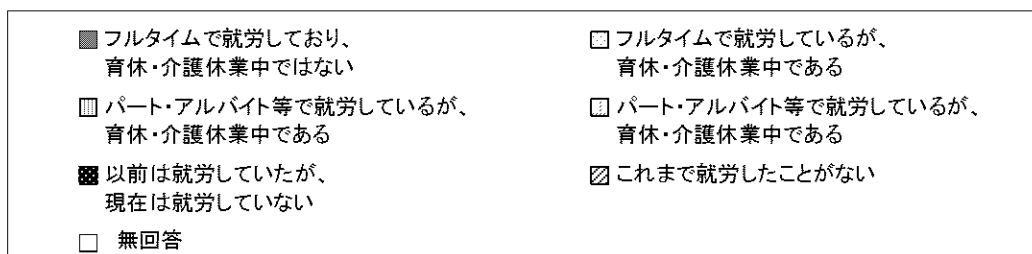
帰宅時間	全体 (N=399)		就学前 (n=287)		小学生 (n=112)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
~16時台	93	23.3	52	18.1	41	36.6
17時台	64	16.0	50	17.4	14	12.5
18時台	149	37.3	111	38.7	38	33.9
19時台	50	12.5	38	13.2	12	10.7
20時台	13	3.3	12	4.2	1	0.9
21時台	3	0.8	3	1.0	0	0.0
22時台	0	0.0	0	0.0	0	0.0
23時台~	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	27	6.8	21	7.3	6	5.4
計	399	100.0	287	100.0	112	100.0

(4) 保護者の就労状況（父親）

就学前児童・小学生児童：問12（2）

父親の就労状況としては、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が最も多く、66.6%となります。就学前児童より小学生児童の割合が高くなっています。

■ 就労状況（父親） N=709



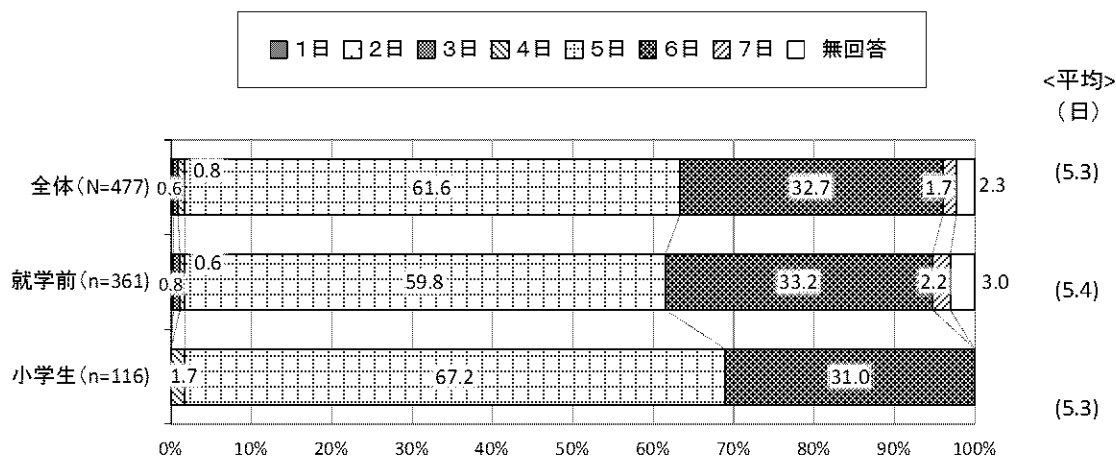
(5) 就労している保護者の週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間」(父親)

就学前児童・小学生児童：問12(2) - 1

就労している父親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「5日」(61.6%)、次いで「6日」(32.7%)であり、平均で5.3日となります。また、1日当たりの就労時間として最も多かったのは8時間以上(95.2%)で多くを占め、平均で8.0時間となります。

■ 1週当たりの「就労日数」(父親)

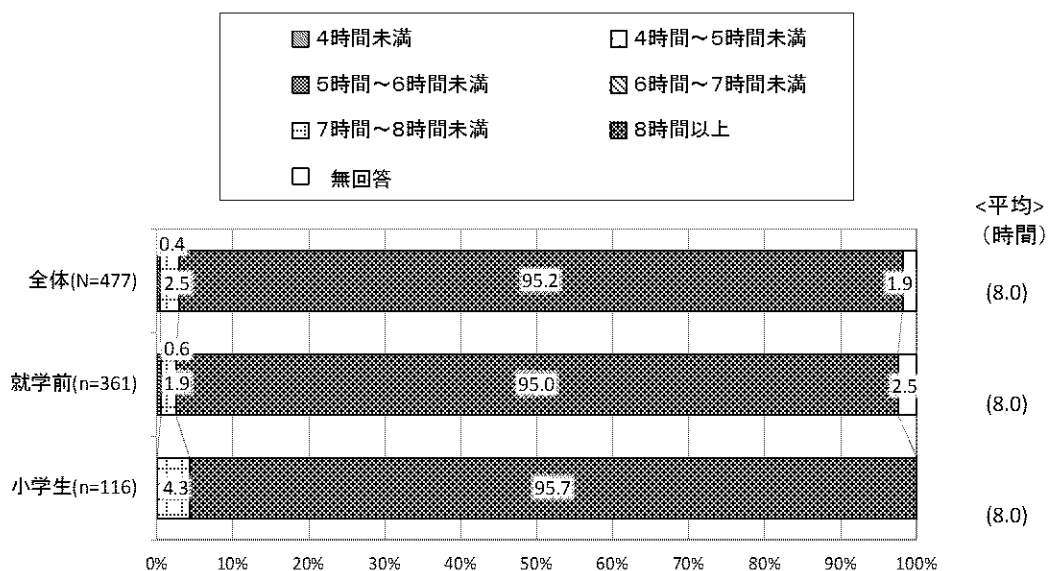
N=477



就労日数	全体(N=477)		就学前(n=361)		小学生(n=116)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2日	1	0.2	1	0.3	0	0.0
3日	3	0.6	3	0.8	0	0.0
4日	4	0.8	2	0.6	2	1.7
5日	294	61.6	216	59.8	78	67.2
6日	156	32.7	120	33.2	36	31.0
7日	8	1.7	8	2.2	0	0.0
無回答	11	2.3	11	3.0	0	0.0
計	477	100.0	361	100.0	116	100.0

■ 1日当たりの「就労時間」(父親)

N=477



就労時間	全体 (N=477)		就学前 (n=361)		小学生 (n=116)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
4時間未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4時間~5時間未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5時間~6時間未満	2	0.4	2	0.6	0	0.0
6時間~7時間未満	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7時間~8時間未満	12	2.5	7	1.9	5	4.3
8時間以上	454	95.2	343	95.0	111	95.7
無回答	9	1.9	9	2.5	0	0.0
計	477	100.0	361	100.0	116	100.0

(6) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間（父親）

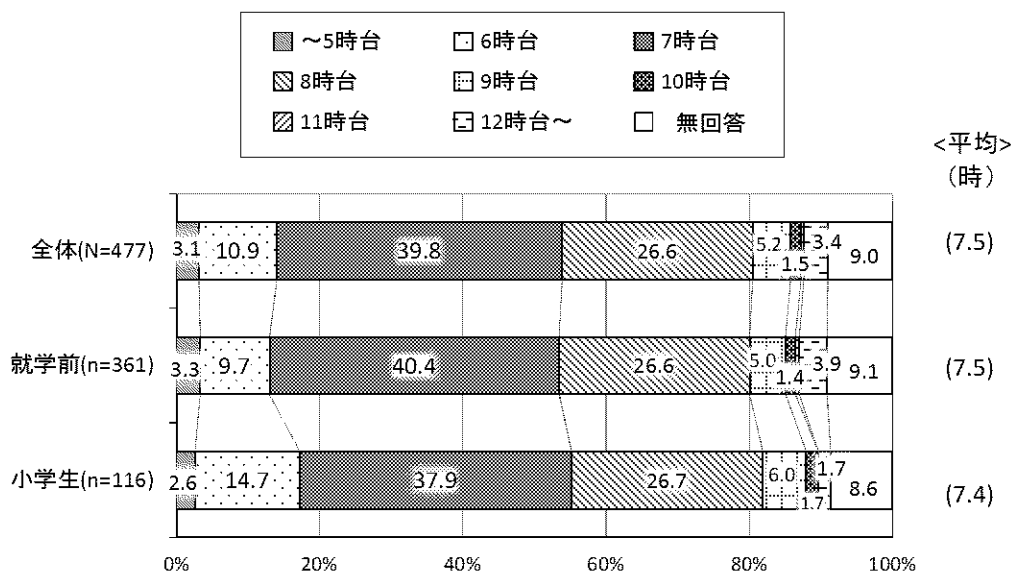
就学前児童・小学生児童：問12（2）－2

父親が家を出る時間は「7時台」が39.8%と最も多く、続いて「8時台」(26.6%)、「6時台」(10.9%)となり、平均で7時30分頃となります。

帰宅時間は「19時台」(20.8%)が最も多く、続いて「20時台」(17.6%)、「18時台」(15.5%)、「21時台」(14.5%)となり、平均で19時40分頃となります。

■ 家を出る時間（父親）

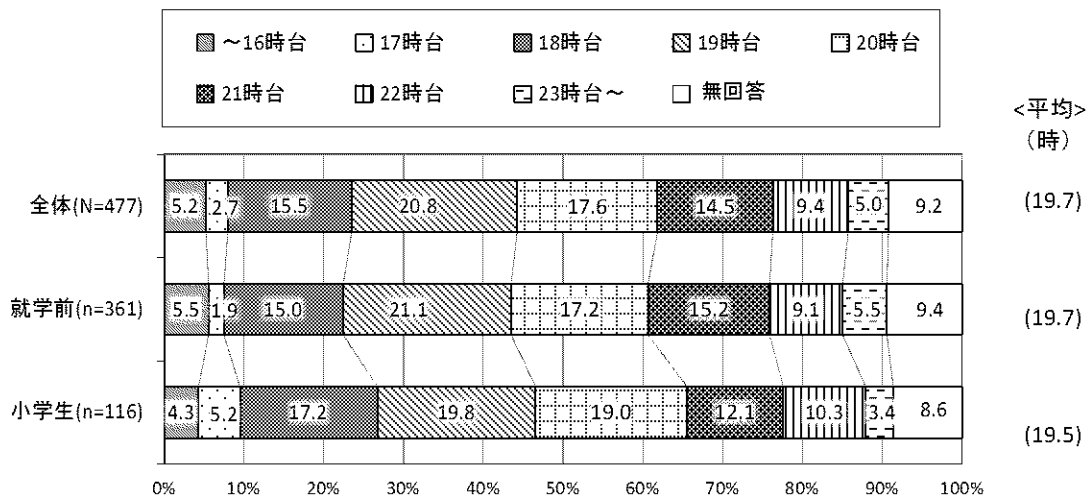
N=477



家を出る時間	全体(N=477)		就学前(n=361)		小学生(n=116)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
~5時台	15	3.1	12	3.3	3	2.6
6時台	52	10.9	35	9.7	17	14.7
7時台	190	39.8	146	40.4	44	37.9
8時台	127	26.6	96	26.6	31	26.7
9時台	25	5.2	18	5.0	7	6.0
10時台	7	1.5	5	1.4	2	1.7
11時台	2	0.4	2	0.6	0	0.0
12時台~	16	3.4	14	3.9	2	1.7
無回答	43	9.0	33	9.1	10	8.6
計	477	100.0	361	100.0	116	100.0

■ 帰宅時間（父親）

N = 477



帰宅時間	全体(N=477)		就学前(n=361)		小学生(n=116)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
～16時台	25	5.2	20	5.5	5	4.3
17時台	13	2.7	7	1.9	6	5.2
18時台	74	15.5	54	15.0	20	17.2
19時台	99	20.8	76	21.1	23	19.8
20時台	84	17.6	62	17.2	22	19.0
21時台	69	14.5	55	15.2	14	12.1
22時台	45	9.4	33	9.1	12	10.3
23時台～	24	5.0	20	5.5	4	3.4
無回答	44	9.2	34	9.4	10	8.6
計	477	100.0	361	100.0	116	100.0



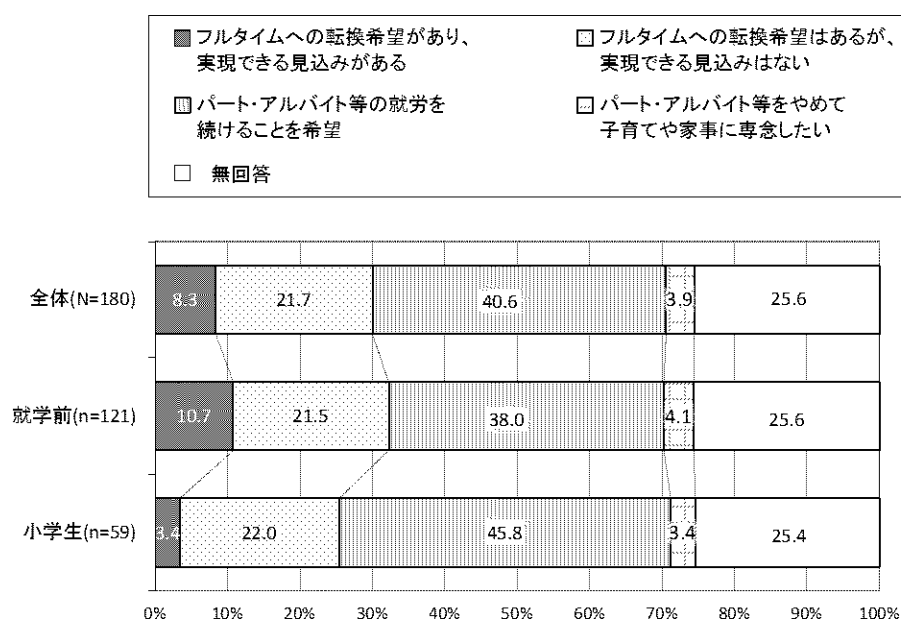
(7) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パート、アルバイト等）  
（母親）

就学前児童・小学生児童：問 13（1）

母親のフルタイムへの転換希望として、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」（40.6%）が最も多く、小学生児童でその割合は高くなっています。

「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」という回答は、8.3%であり、就学前児童と小学生児童を比較すると、就学前児童では10.7%、小学生では3.4%と就学前児童の方が高くなっています。

■ フルタイムへの転換希望（母親） N=180



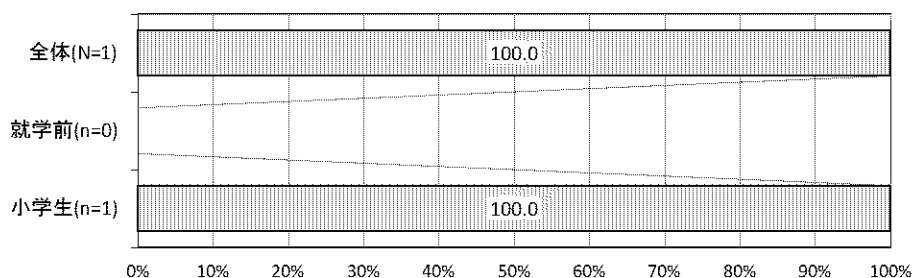
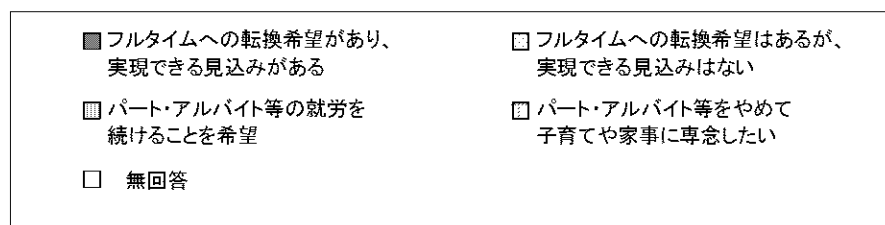
(8) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パート、アルバイト等）  
（父親）

就学前児童・小学生児童：問13（2）

父親のフルタイムへの転換希望として、小学生の父親1人から得ています。「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」という回答になっており、現状のままパート・アルバイトの就労を続けたいということがうかがえます。

■ フルタイムへの転換希望（父親）

N=1



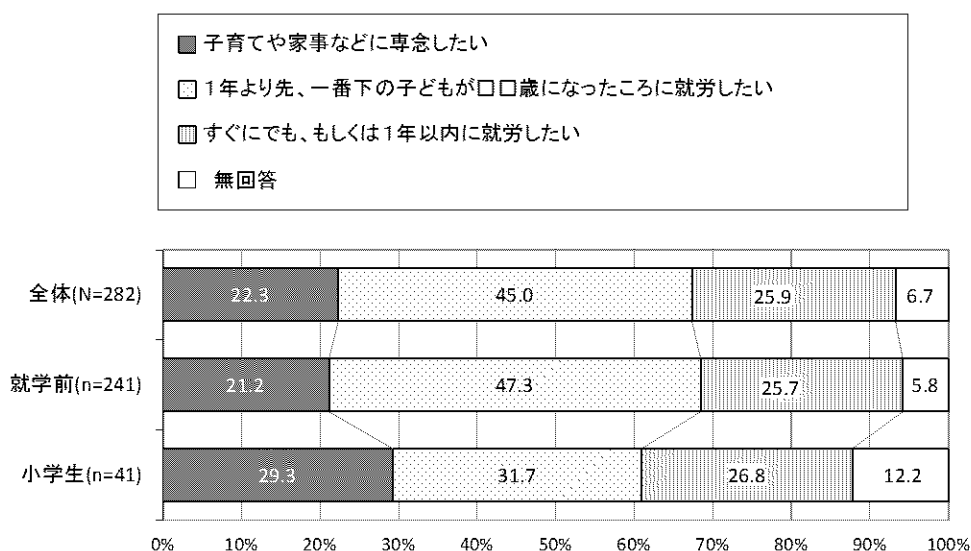
**(9) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望（母親）**

就学前児童・小学生児童：問 14（1）

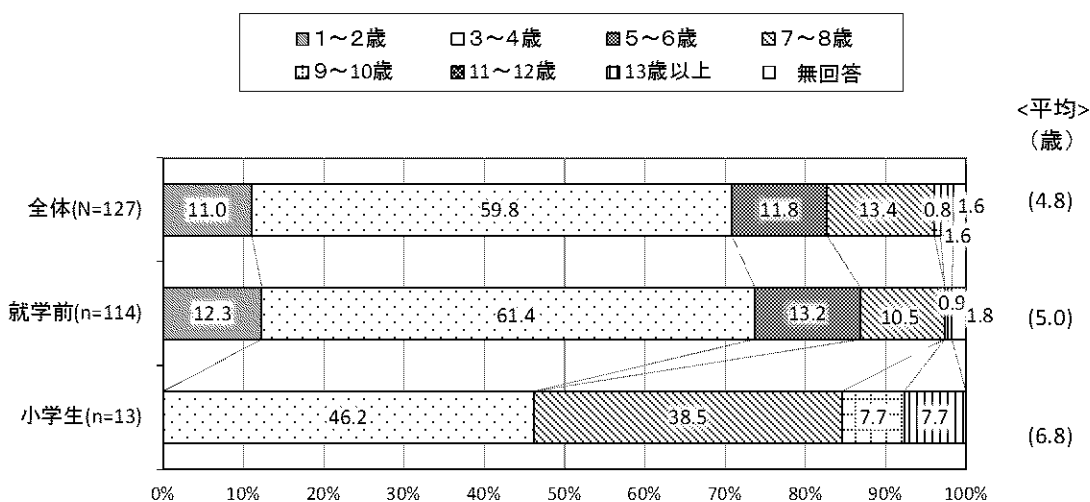
現在就労していない母親について、「1年より先、一番下の子どもが□□歳になったところに就労したい」あるいは「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した母親が全体の70.9%を占めており、就学前児童と小学生児童を比較すると、就学前児童でその割合は高くなっており、就労を希望している母親が多いことがうかがえます。

子どもが何歳になったら就労を希望するかについて、就学前児童の母親では3～4歳という回答が61.4%、次いで「5～6歳」（13.2%）で、平均は5.0歳となっています。また小学生児童では3～4歳という回答が46.2%、次いで「7～8歳」（38.5%）、「9～10歳」と「13歳以上」がそれぞれ7.7%で、平均は6.8歳です。

■ 就労希望（母親） N=282



■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（母親） N=127



(10) 就労を希望する保護者の就労希望形態（母親）

就学前児童・小学生児童：問 14（1）

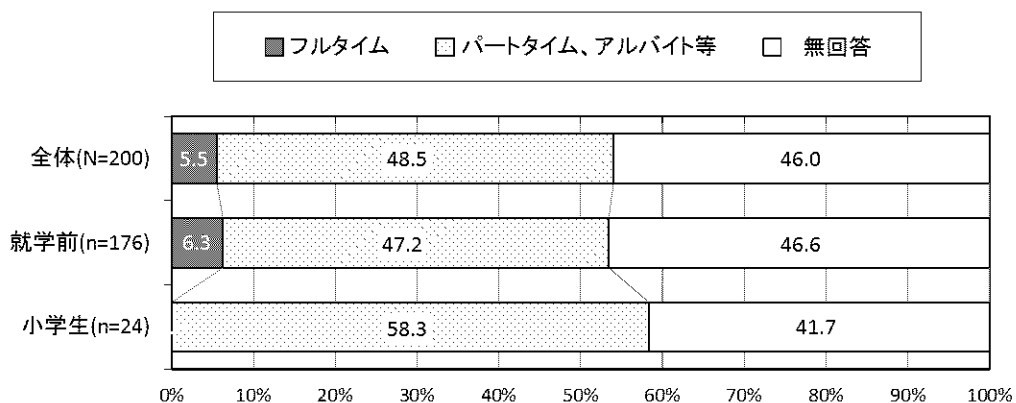
母親の希望する就労形態としては、「パートタイム・アルバイト等」（48.5%）が多く、無回答を除くと、次いで「フルタイム」（5.5%）となります。就学前児童と比較し、小学生児童でパートタイム・アルバイト等の希望割合が高くなります。

パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数として、「5日」（35.1%）が最も多く、「4日」（30.9%）、「3日」（28.9%）となり、平均は4.0日で、小学生児童と就学前児童を比較すると、小学生児童では5日就労希望が50.0%と高い傾向がみられます。

パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間として、「5時間～6時間未満」（42.3%）が最も多く、次いで「4時間～5時間未満」（23.7%）、「6時間～7時間未満」（22.7%）となり、平均は5.2時間となっています。

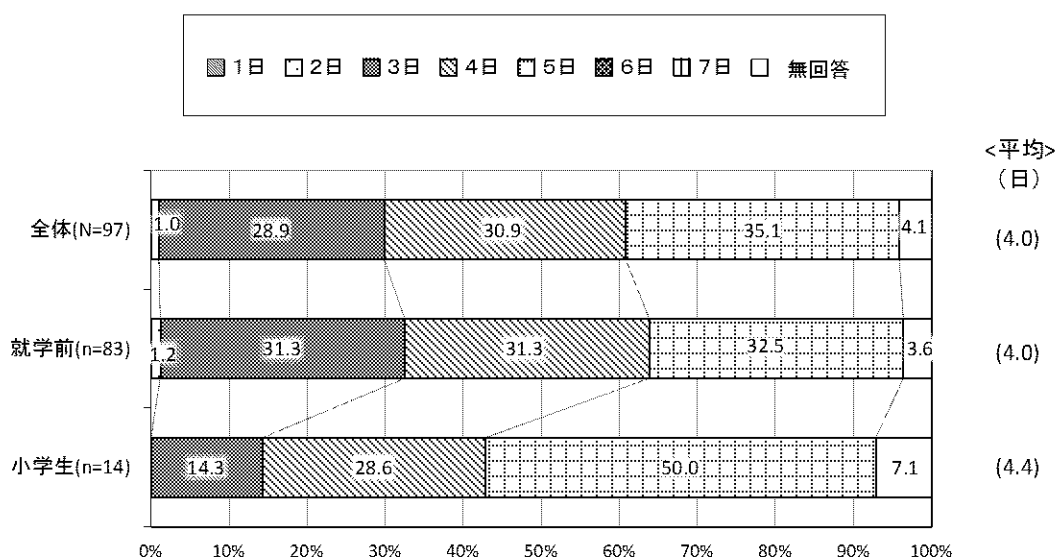
就学前児童と小学生児童を比較すると、就学前児童の方が6時間～7時間未満の就労時間を希望している人が多く、小学生児童の方が4時間～5時間未満の就労希望が高いことがうかがえます。

■ 希望する就労形態（母親） N=200



■ パート・アルバイト等として希望する就労日数（母親）

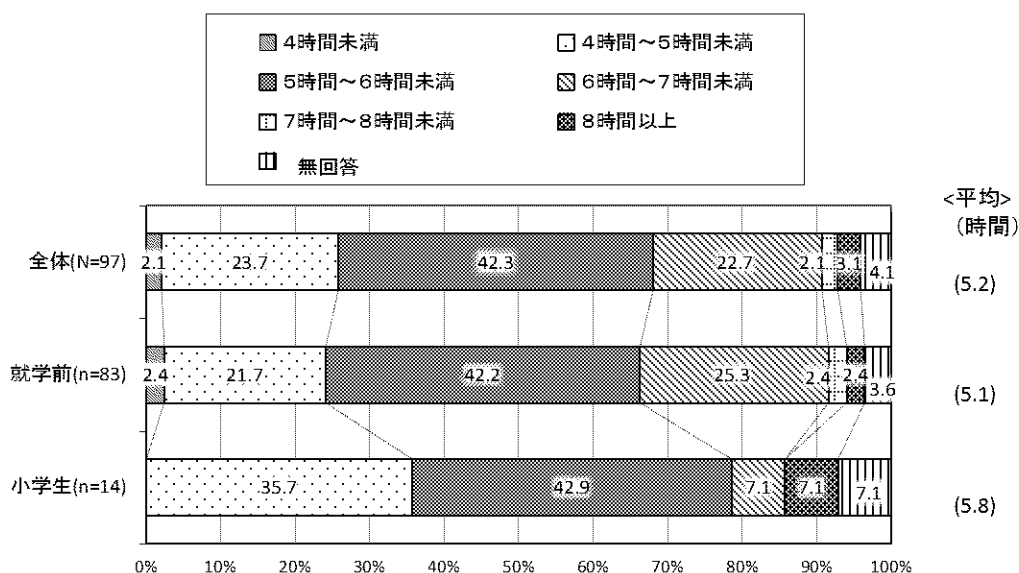
N=97



日数	全体(N=97)		就学前(n=83)		小学生(n=14)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
1日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2日	1	1.0	1	1.2	0	0.0
3日	28	28.9	26	31.3	2	14.3
4日	30	30.9	26	31.3	4	28.6
5日	34	35.1	27	32.5	7	50.0
6日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
7日	0	0.0	0	0.0	0	0.0
無回答	4	4.1	3	3.6	1	7.1
計	97	100.0	83	100.0	14	100.0

■ パート・アルバイト等として希望する就労時間数（母親）

N=97



就労時間	全体 (N=97)		就学前 (n=83)		小学生 (n=14)	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
4時間未満	2	2.1	2	2.4	0	0.0
4時間～5時間未満	23	23.7	18	21.7	5	35.7
5時間～6時間未満	41	42.3	35	42.2	6	42.9
6時間～7時間未満	22	22.7	21	25.3	1	7.1
7時間～8時間未満	2	2.1	2	2.4	0	0.0
8時間以上	3	3.1	2	2.4	1	7.1
無回答	4	4.1	3	3.6	1	7.1
計	97	100.0	83	100.0	14	100.0

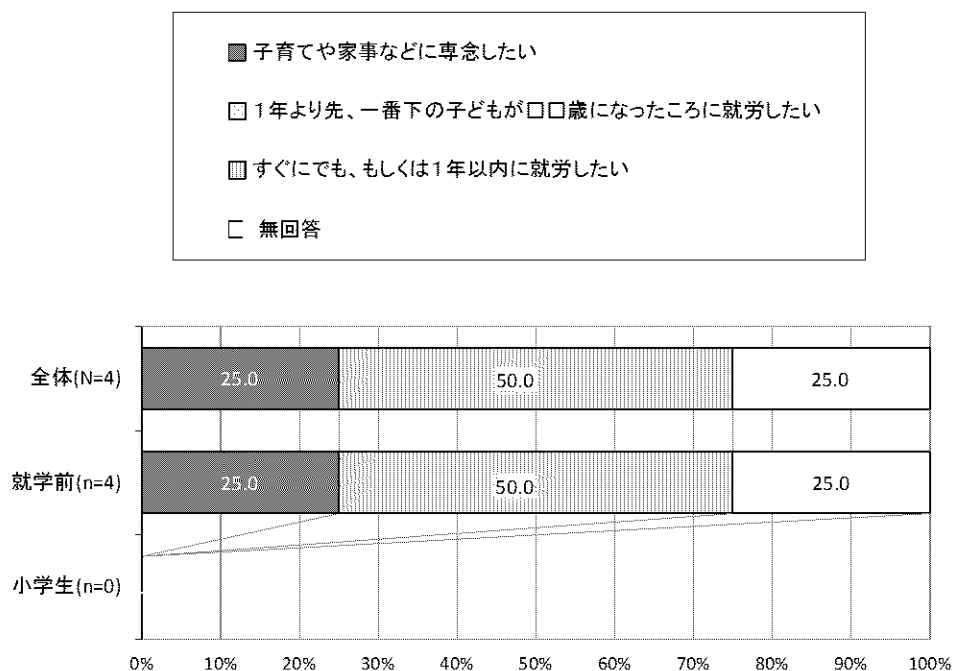
(11) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望（父親）

就学前児童・小学生児童：問 14（2）

現在就労していない父親について、就学前児童の父親 4 人から回答を得ています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した父親が 50.0%を占めており、「子育てや家事などに専念したい」という回答も 25.0%あります。

■ 就労希望（父親） N = 4



■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（父親） N=0

該当者なし

(12) 就労を希望する保護者の就労希望形態（父親）

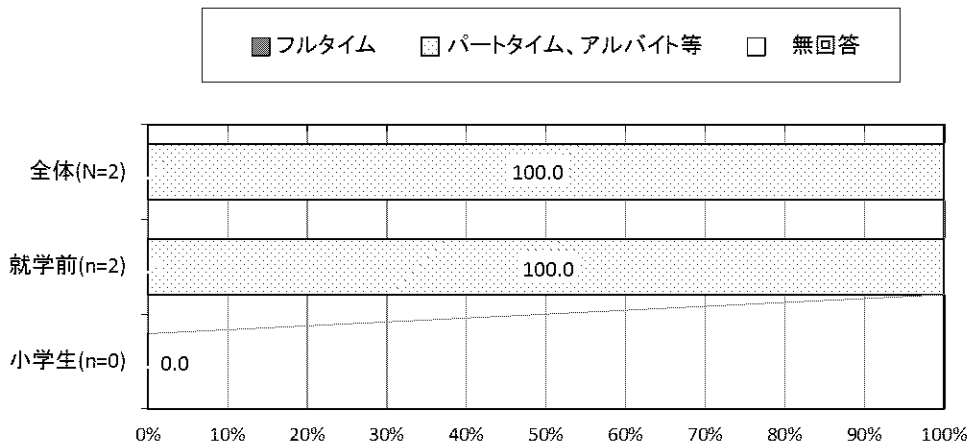
就学前児童・小学生児童：問 14（2）

父親が希望する就労形態としては、就学前児童の父親 2 人から回答があり、「パートタイム・アルバイト等」で 100.0%となります。

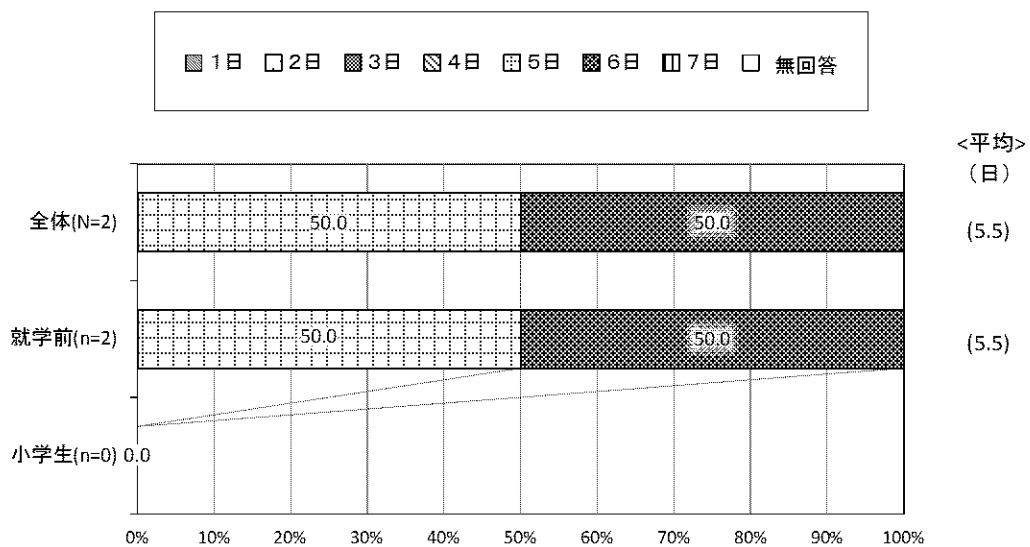
希望する就労日数として、「5日」と「6日」でそれぞれ 50.0%となっており、平均で 5.5日となっています。

また、1日あたりの就労時間として、「8時間以上」という回答になっています。

■ 希望する就労形態（父親） N = 2



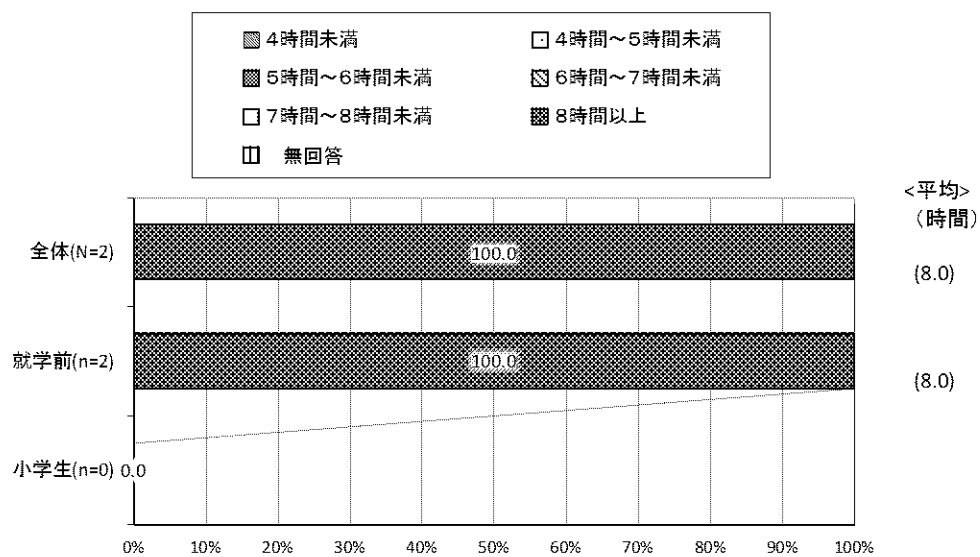
■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数（父親） N = 2





■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間数（父親）

N = 2



## 5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

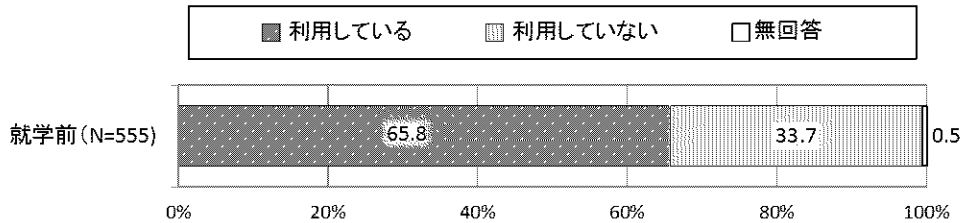
### (1) 子どもの定期的な教育・保育の事業の利用

就学前児童：問 15

定期的な教育・保育の事業を利用している人は、回答者の 65.8%、利用していない人は 33.7%という結果になっています。

#### ■ 定期的な教育・保育の事業の利用

N=555



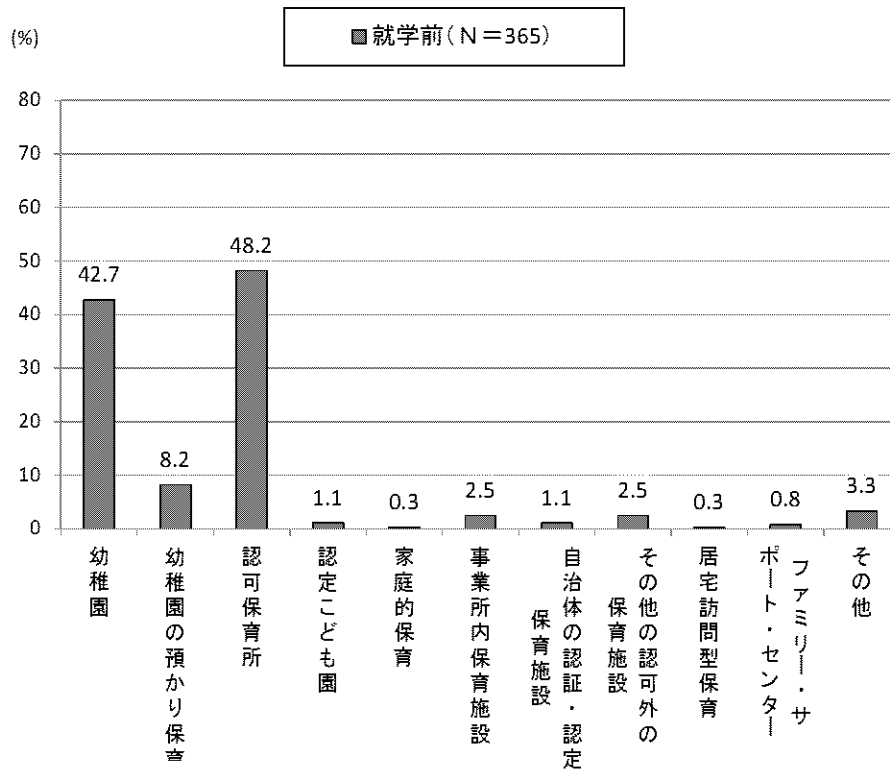
### (2) 子どもが平日に利用している教育・保育の事業（複数回答）

就学前児童：問 15-1

利用している教育・保育の事業として、「認可保育所」が 48.2%で最も多くみられ、次いで「幼稚園」(42.7%)となっています。

#### ■ 平日に利用する教育・保育の事業

N=365



### (3) 子どもが平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用状況

就学前児童：問 15-2 (1)

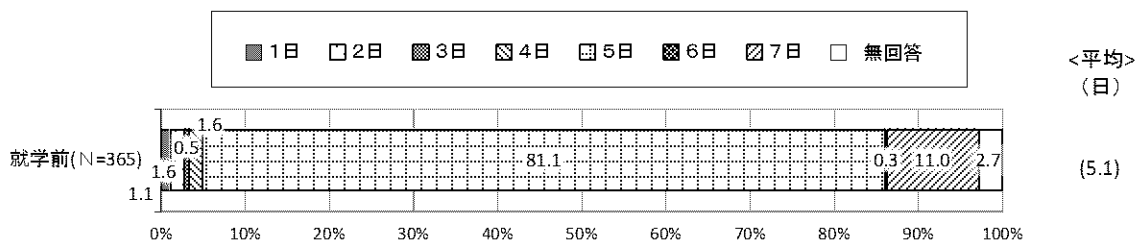
平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況について、利用日数としては「5日」(81.1%)が大多数を占めており、次いで「7日」(11.0%)となっています。

利用時間として、「4時間～8時間未満」(44.1%)が最も多く、次いで「9時間～10時間未満」(17.0%)、「8時間～9時間未満」(16.2%)、「10時間～11時間未満」(13.2%)となっており、平均時間は6時間40分程となっています。

利用開始時間については、「9時台」(54.2%)が最も多く、次いで「8時台」(32.1%)となっており、平均が8時30分頃で、8～9時台で86.3%となります。

利用終了時間については、「18時台」(24.7%)が最も多く、次いで「17時台」(23.8%)となっており、平均が16時40分頃で、17～18時台で48.5%となります。

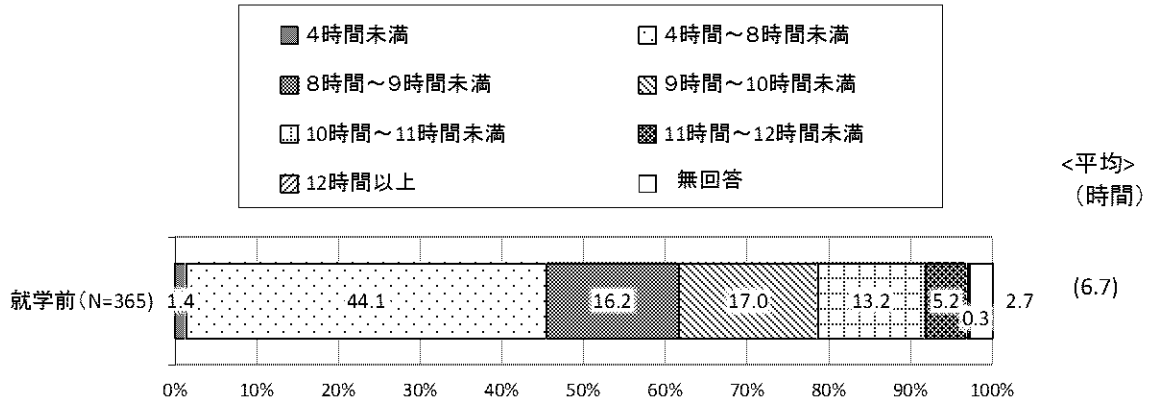
■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用日数 N=365



就学前(N=365)		
利用日数	(人)	(%)
1日	4	1.1
2日	6	1.6
3日	2	0.5
4日	6	1.6
5日	296	81.1
6日	1	0.3
7日	40	11.0
無回答	10	2.7
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用時間

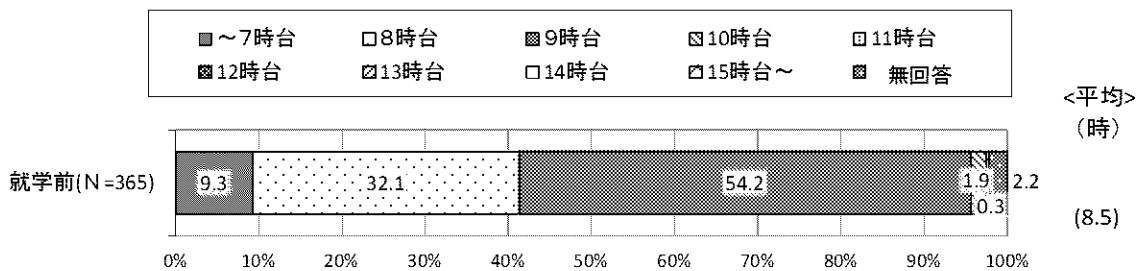
N=365



利用時間	就学前(N=365)	
	(人)	(%)
4時間未満	5	1.4
4時間～8時間未満	161	44.1
8時間～9時間未満	59	16.2
9時間～10時間未満	62	17.0
10時間～11時間未満	48	13.2
11時間～12時間未満	19	5.2
12時間以上	1	0.3
無回答	10	2.7
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用開始時間

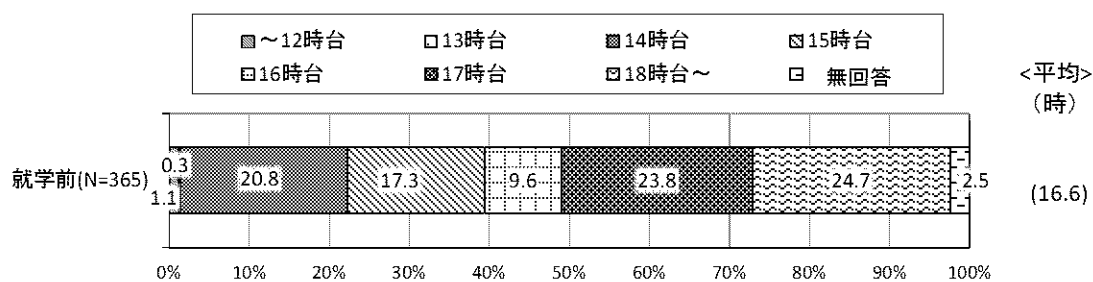
N=365



利用開始時間	就学前(N=365)	
	(人)	(%)
～7時台	34	9.3
8時台	117	32.1
9時台	198	54.2
10時台	7	1.9
11時台	0	0.0
12時台	0	0.0
13時台	0	0.0
14時台	0	0.0
15時台～	1	0.3
無回答	8	2.2
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用終了時間

N = 365



利用終了時間	就学前(N=365)	
	(人)	(%)
~12時台	4	1.1
13時台	1	0.3
14時台	76	20.8
15時台	63	17.3
16時台	35	9.6
17時台	87	23.8
18時台~	90	24.7
無回答	9	2.5
計	365	100.0

(4) 子どもが平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用状況の意向

就学前児童：問15-2(2)

平日の定期的な教育・保育の事業の利用意向について、利用日数としては「5日」(54.8%)が最も多く、次いで「6日」(18.9%)となっています。

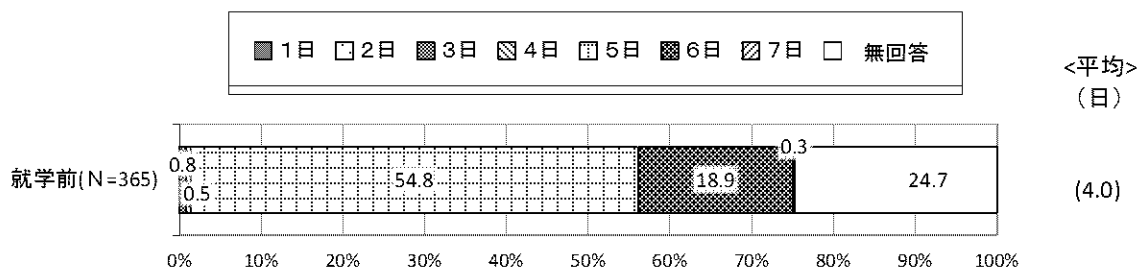
利用時間の意向としては、「4時間～8時間未満」(25.2%)が最も多く、次いで「8時間～9時間未満」(16.4%)、「9～10時間未満」(11.8%)、「10～11時間未満」(11.0%)となっており、平均時間は5時間15分位となっています。

利用開始時間の意向については、「9時台」(38.6%)が最も多く、次いで「8時台」(26.8%)となっており、平均が8時25分頃で、8～9時台で65.4%となります。

利用終了時間の意向については、「18時台」(26.8%)が最も多く、次いで無回答を除き、17時台(18.1%)となっており、平均が16時40分頃となります。

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用日数の意向

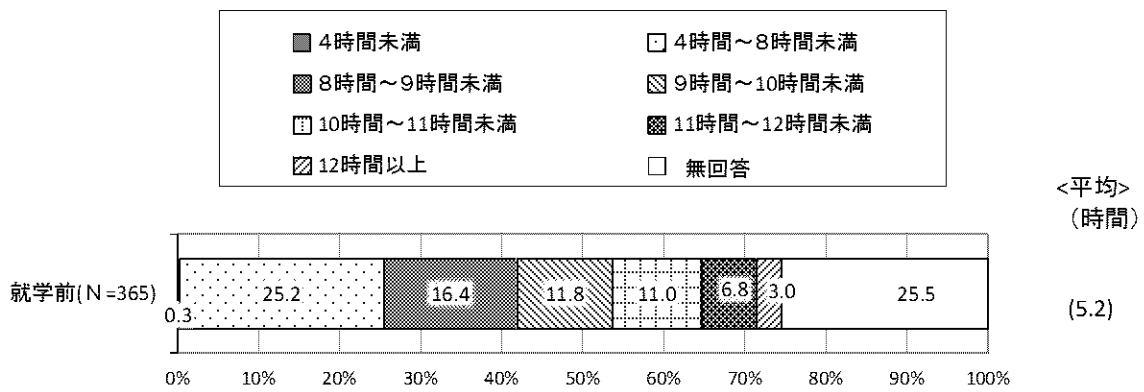
N=365



利用日数	就学前(N=365)	
	(人)	(%)
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	3	0.8
4日	2	0.5
5日	200	54.8
6日	69	18.9
7日	1	0.3
無回答	90	24.7
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用時間の意向

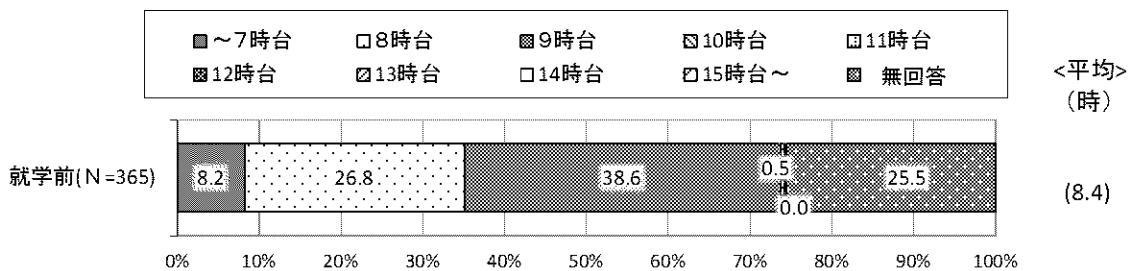
N=365



就学前(N=365)		
利用時間	(人)	(%)
4時間未満	1	0.3
4時間～8時間未満	92	25.2
8時間～9時間未満	60	16.4
9時間～10時間未満	43	11.8
10時間～11時間未満	40	11.0
11時間～12時間未満	25	6.8
12時間以上	11	3.0
無回答	93	25.5
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用開始時間の意向

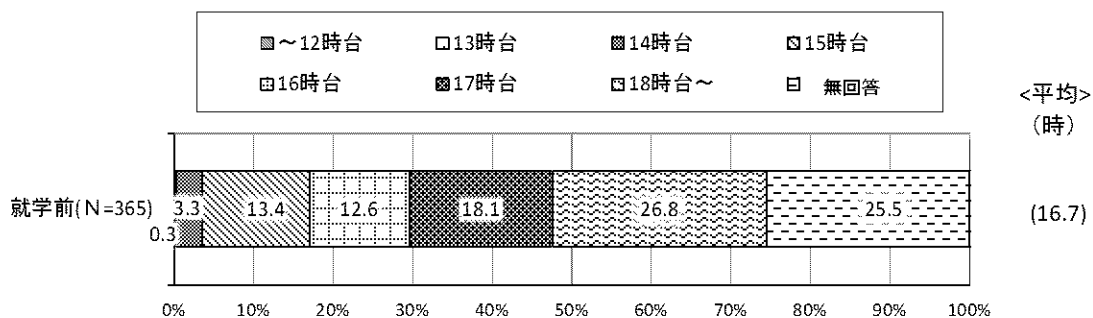
N=365



就学前(N=365)		
利用開始時間	(人)	(%)
～7時台	30	8.2
8時台	98	26.8
9時台	141	38.6
10時台	2	0.5
11時台	1	0.3
12時台	0	0.0
13時台	0	0.0
14時台	0	0.0
15時台～	0	0.0
無回答	93	25.5
計	365	100.0

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用終了時間の意向

N=365



利用終了時間	就学前(N=365)	
	(人)	(%)
~12時台	1	0.3
13時台	0	0.0
14時台	12	3.3
15時台	49	13.4
16時台	46	12.6
17時台	66	18.1
18時台~	98	26.8
無回答	93	25.5
計	365	100.0

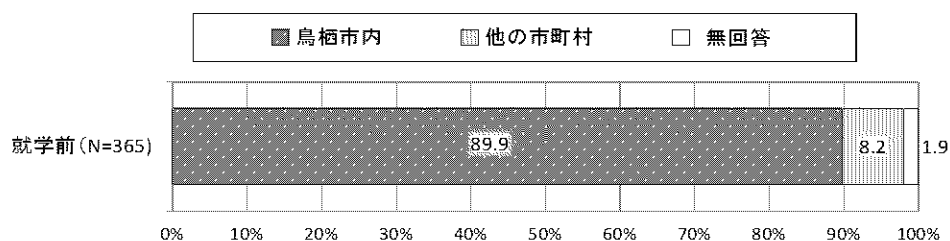
(5) 現在、利用している教育・保育事業の場所

就学前児童：問 15-3

現在、教育・保育事業を利用する場所としては、「鳥栖市内」が 89.9%、「他の市町村」が 8.2%となっています。

■ 利用する教育・保育事業の場所

N=365





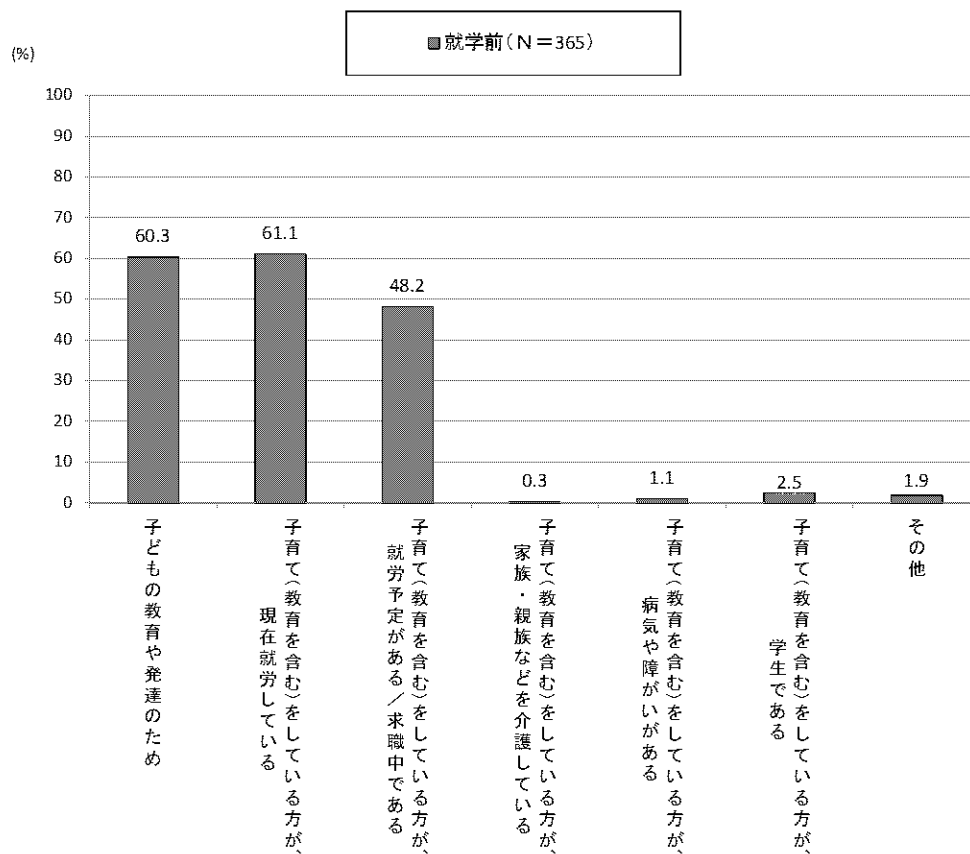
## (6) 平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由（複数回答）

就学前児童：問 15－4

平日に定期的に教育・保育の事業を利用する理由として、「子育てをしている方が、現在就労している」(61.1%) が最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」(60.3%) となり、事業を利用する理由として就労だけではないことがうかがえます。

### ■ 教育・保育の事業を利用する理由

N=365



## (7) 子どもが定期的な教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）

就学前児童：問 15－5

定期的な教育・保育の事業を利用していない理由として、「子どもがまだ小さいため」（57.2%）と回答した人が最も多く、次いで「利用する必要がない」（46.0%）、「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」（11.8%）と続きます。経済的な理由で事業を利用できない人は5.9%みられます。

子どもが何歳になったら定期的な教育・保育事業を利用したいかについては、「3歳」が50.5%と最も多く、次いで「4歳」（20.6%）、「1歳」（15.0%）となり、平均2.2歳と考えていることがうかがえます。

### ■ 教育・保育の事業を利用していない理由

N = 187

